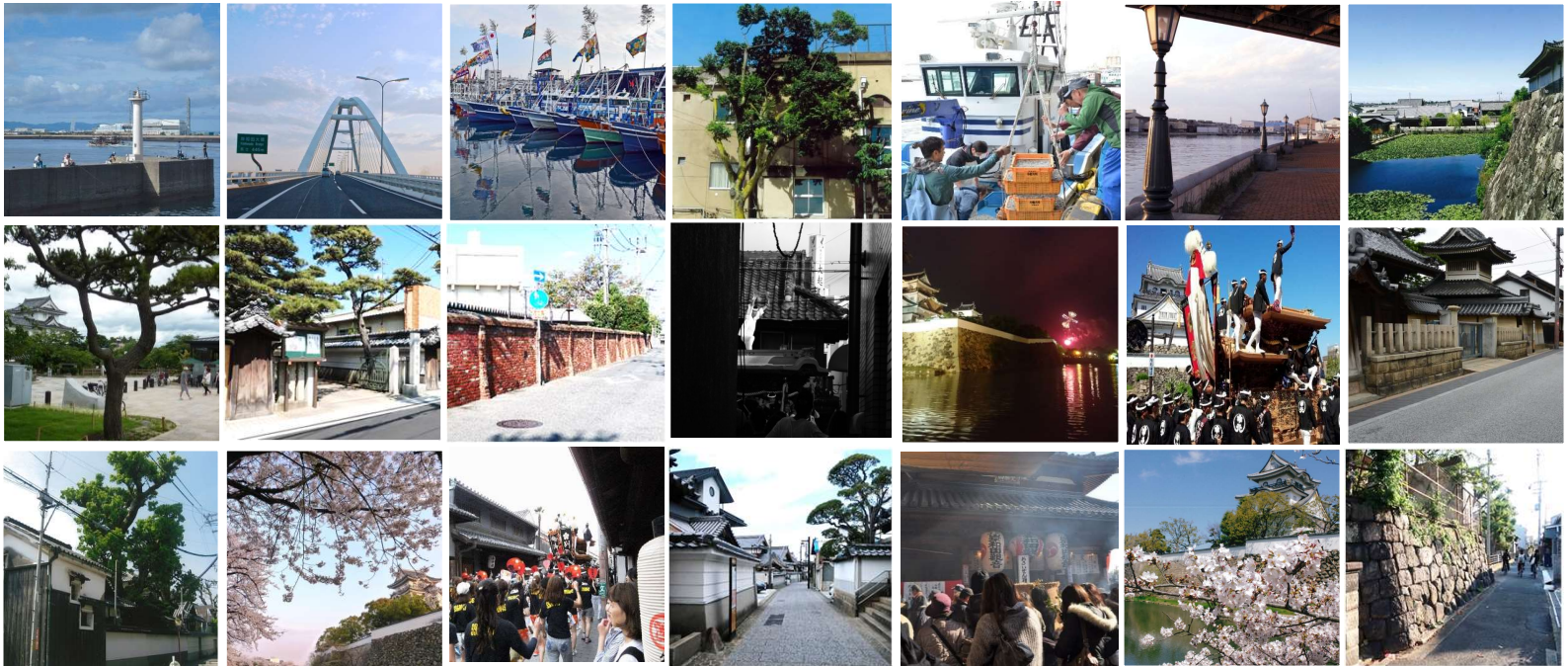




こころに残る 景観資源

～こころに残るあの場所を 未来へつむぐ物語～



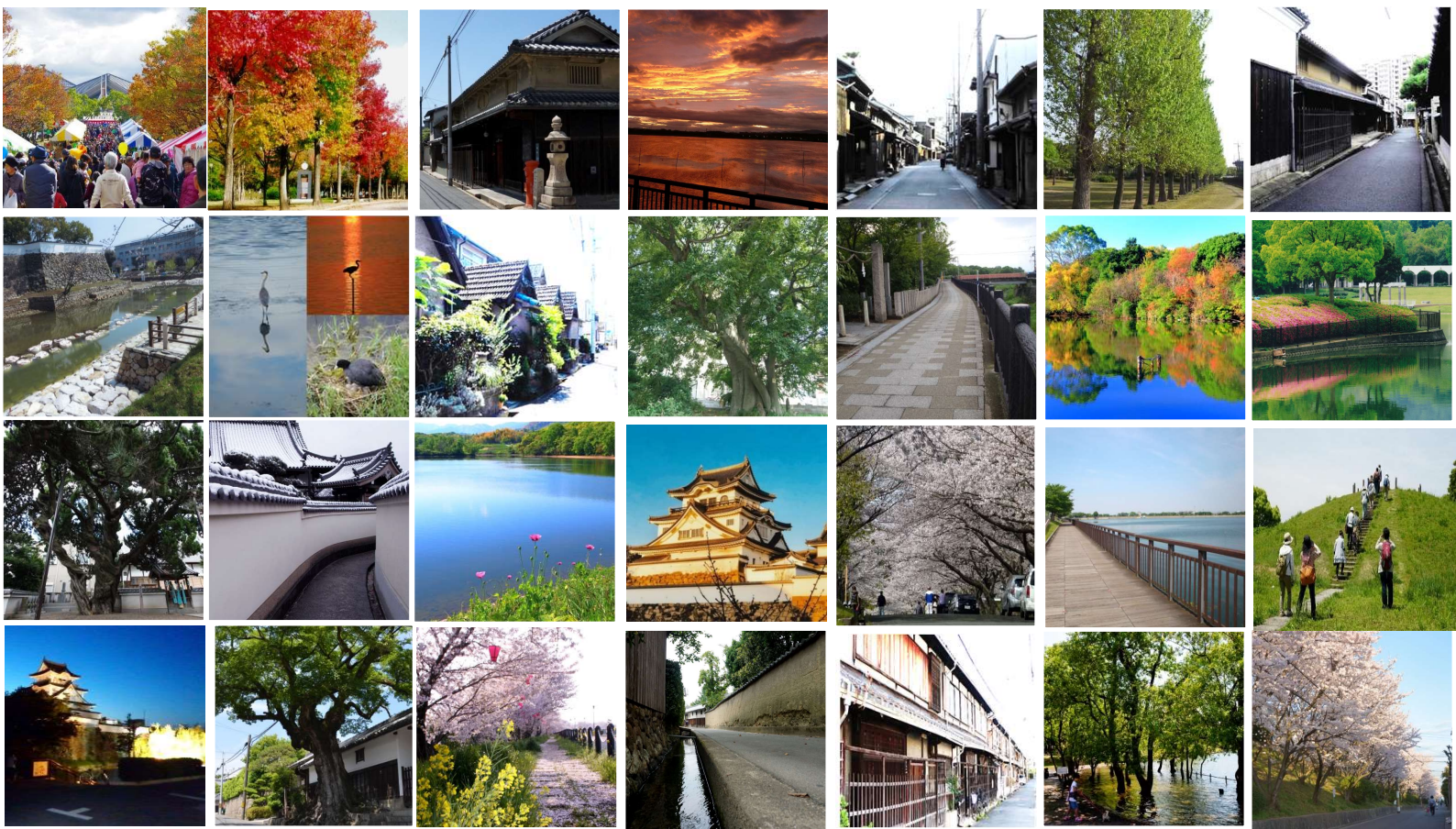
© Kishiwada City 2013

岸和田 景観 MODE

岸和田市

～ Kishiwada.City ～

令和3年4月



プロジェクトの系譜

岸和田市景観計画

岸和田市景観計画は、恵まれた自然・歴史・文化資産を活かし、岸和田市にふさわしい風格ある景観づくりに努めることで、更に岸和田らしい魅力あふれた快適なまちとして、これを次代の市民、事業者を引き継いでいくことを目的に策定しています。

景観形成の基本目標である『豊かな自然環境と歴史的環境が織り成す「個性的快適環境都市」の創生』を実現するためには、市民、事業者、行政が総合的かつ多面的にお互いの立場を理解しながら協力し、優れた景観をまもり、はぐくみ、つくりだし、次の世代へつないでいく必要があります。

基本景観区	主な土地利用
臨海景観区	工業、港湾
旧市街・歴史景観区	住宅、商業
沿道型市街地景観区	住宅、商業、工業
新市街地住宅景観区	住宅、商業
里の景観区	農地、樹林地
自然緑地景観区	樹林地



こころに残る景観資源発掘プロジェクト

こころに残る景観資源発掘プロジェクトは、地域の景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積、共有していくことで地域の魅力を高め、郷土への愛着や誇りの醸成と地域価値の向上に寄与するなどの効果を創出する事を目的として平成24年度よりプロジェクトを実施しています。



まちかど審査の様子

＜プロジェクトの流れ＞

景観資源の公募 → まちかど審査 → 有識者による審査・推薦
→ 推薦された景観資源を市長が指定



＜こころに残る景観資源指定（R03・3月現在）＞

・樹木 15件 ・みち 21件 ・水辺 15件 ・まち19件 ・ひとの営み10件

※各景観資源のタイトル及びエピソードは応募原文のままとしています。

目次

P.02	プロジェクトの系譜／目次
P.03	こころに残る景観資源マップ（全体）
P.06	こころに残る景観資源マップ（部分詳細）
P.07	こころに残る「樹木」景観
P.12	こころに残る「みち」景観
P.19	こころに残る「水辺」景観
P.24	こころに残る「まち」景観
P.30	こころに残る「ひとの営み」景観
P.34	こころに残る景観資源 応募者エピソード集
P.43	岸和田市景観重要樹木

こころに残る景観資源マップ(全体図)



ここに残る

景観資源マップ(全体図)

凡例

00

樹木

00

みち

00

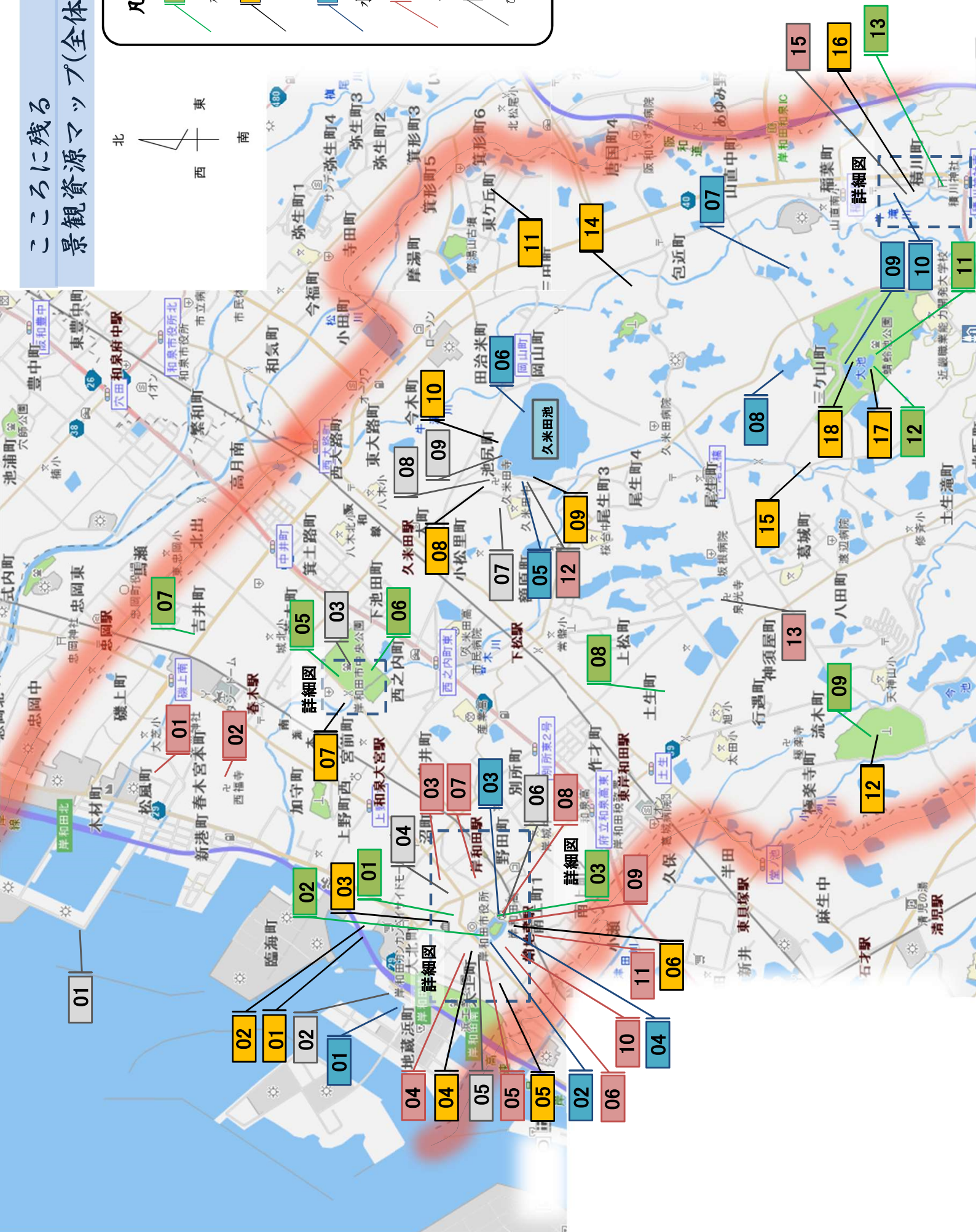
水辺

00

まち

00

ひとの
営み



【ここに残る景観資源：樹木】

- 01_中央小学校のエノキ
- 02_二の丸公園 マツ
- 03_岸和田城堀端の桜並木
- 04_上町の楠
- 05_中央公園のモミジバフウ
- 06_中央公園のボフラ並木
- 07_吉井町のエノキ (景観重要樹木)
- 08_西向寺のいぶき
- 09_流木墓園の桜並木
- 10_奥家の桜 (景観重要樹木)
- 11_蜻蛉池公園のヤナギ
- 12_蜻蛉池公園のメタセコイア
- 13_積川神社の桜と楠
- 14_大沢神社の杉
- 15_塔原町・サクラ (景観重要樹木)

【ここに残る景観資源：みち】

- 01_岸和田大橋 (阪神高速湾岸線)
- 02_岸和田港を臨むみち
- 03_堺町のだんじり小屋横
- 04_お寺の道 (本町紀州街道)
- 05_南町のみち (紀州街道)
- 06_春を待つ岸和田城の桜道
- 07_春木川遊歩道 (兵主神社横)
- 08_久米田寺へ続くみち
- 09_久米田池遊歩道 (平成26年度指定分)
- 10_久米田池遊歩道 (平成27年度指定分)
- 11_東ヶ丘町ケルバーロード・花絨毯
- 12_流木墓園桜並みみち
- 13_阿間河滝の阿弥陀寺への参道
- 14_包近楠本神社もも花参道
- 15_福田町のまちなみ
- 16_牛滝街道 (積川町)
- 17_パラの小道 (蜻蛉池公園)
- 18_メタセコイアの小道 (蜻蛉池公園)
- 19_相川はたろ遊歩道
- 20_牛滝いよやかの郷散策道
- 21_和泉葛城山登山道

【ここに残る景観資源：水辺】

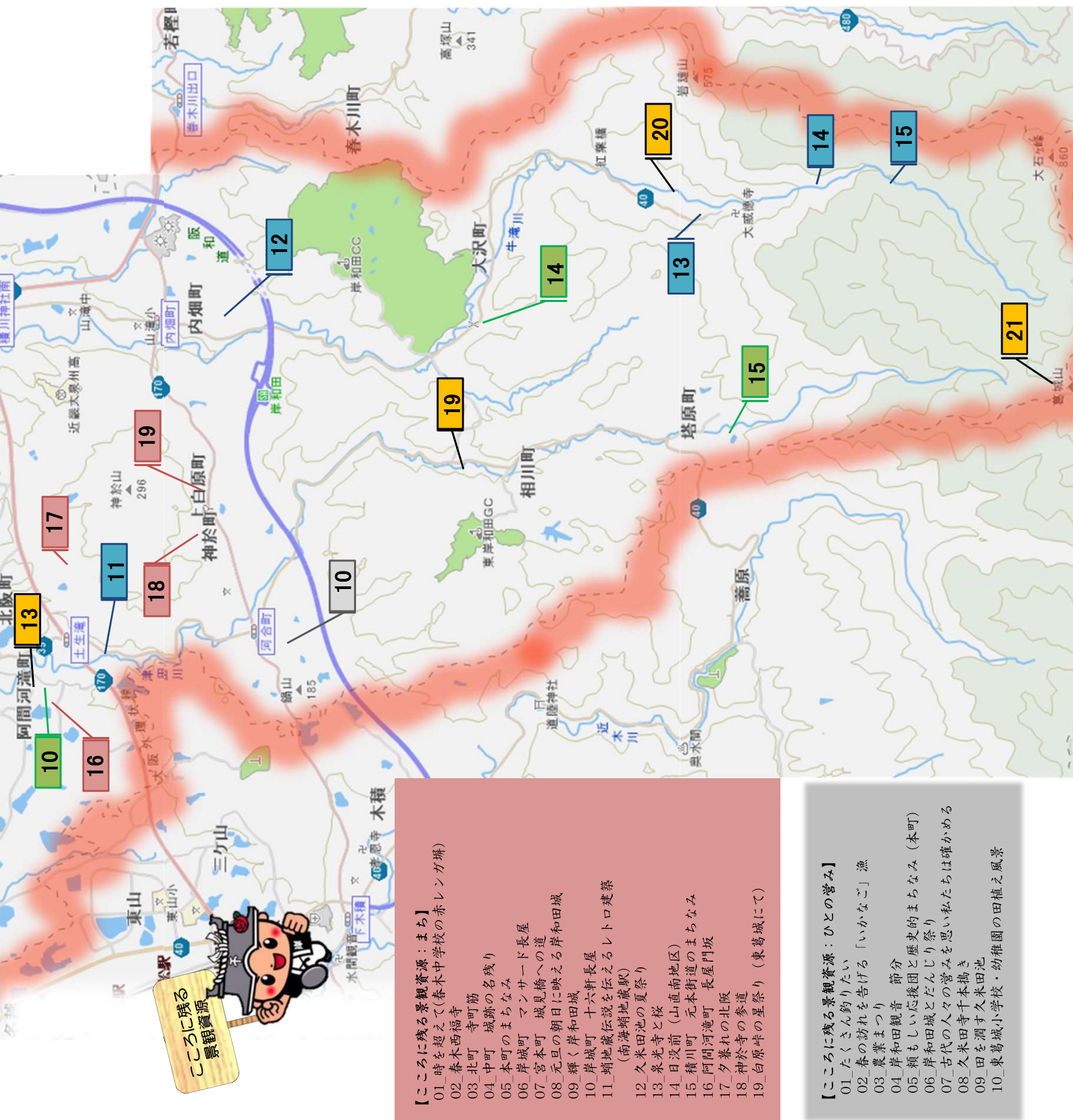
- 01_はたらく岸和田漁港大漁旗雄々しく
- 02_お堀と城下町
- 03_岸和田城を彩る夏の華
- 04_岸和田城水辺
- 05_久米田池の幻想的なハーモニー
- 06_水鳥と久米田池
- 07_山直中町 錦秋のスリバチ池
- 08_田治米町 ポビー咲く七ツ池
- 09_蜻蛉池公園大池の水鏡
- 10_積川町 水路のある古の町並み
- 11_意賀美神社横 雨降り時の滝
- 12_内畑町 だんぼへの水引きの始まり
- 13_大沢町 サギも降り立つ棚田
- 14_牛滝山大威徳寺 一の滝
- 15_牛滝の谷にそぐ錦流の滝

【ここに残る景観資源：まち】

- 01_時を超えて(春木中学校の赤レンガ塀)
- 02_春木西福寺
- 03_北町 寺町筋
- 04_中町 城跡の名残り
- 05_本町のまちなみ
- 06_岸城町 マンサード長屋
- 07_宮城町 城見橋への道
- 08_元旦の朝日に映える岸和田城
- 09_輝く岸和田城
- 10_岸城町 十六軒長屋
- 11_蛸地蔵伝説を伝えるレトロ建築 (南海蛸地蔵駅)
- 12_久米田池の夏祭り
- 13_泉光寺と桜
- 14_日没前 (山直南地区)
- 15_積川町 元本街道のまちなみ
- 16_阿間河滝町 長屋門坂
- 17_夕暮れの北阪
- 18_神於寺の参道
- 19_白原岬の星祭り (東葛城にて)

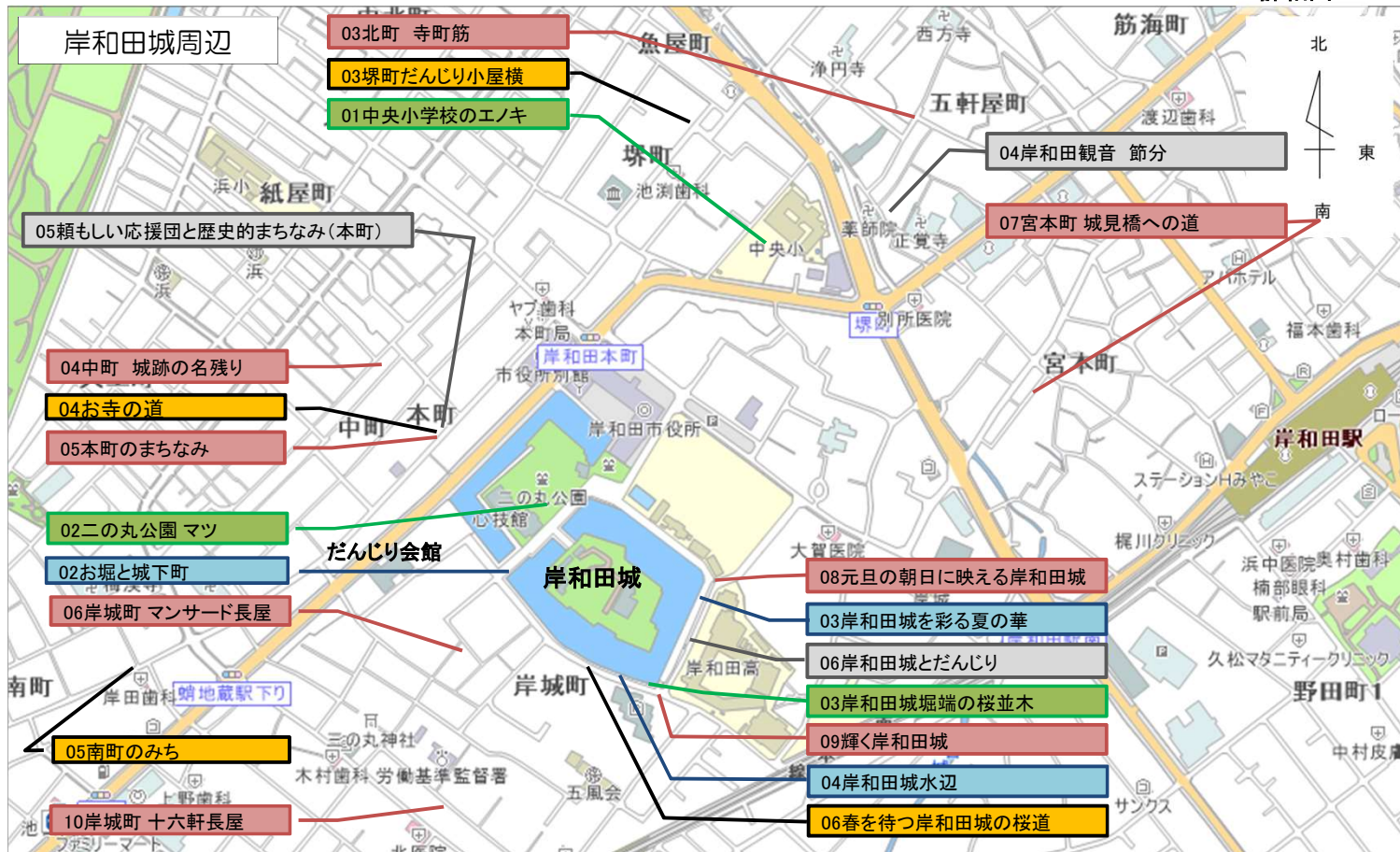
【ここに残る景観資源：ひとの営み】

- 01_たくさん釣りたいたい
- 02_春の訪れを告げる「いかなご」漁
- 03_農業まつり
- 04_岸和田観音 節分
- 05_頼もしい応援団と歴史的まちなみ (本町)
- 06_岸和田城とだんじり祭り
- 07_古代の人々の営みを思い私たちは確かめる
- 08_久米田寺千本搦き
- 09_田を潤す久米田池
- 10_東葛城小学校・幼稚園の田植え風景



ここに残る景観資源マップ（詳細）

詳細図1



詳細図2



詳細図3



※ ここに残る景観資源の見学にお越しの際は公共交通などをご利用下さい。
また、周辺の迷惑にならないよう管理者の指示に従うなどマナーを持って来訪して下さい。

ここに残る**景観**資源

～ 樹木 ～



<募集要件>

- ・岸和田市内にあり、道路、河川及び公園など公共の場所からみえるもの
- ・地域のシンボルとして市民に親しまれ、周辺の良い景観を特徴付けている樹木
- ・岸和田の景観形成に良い影響を与えているもの

<指定までのあゆみ>

- ・応募件数111件
- ・まちかど審査延べ517人
- ・学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が15件を指定

こころに残る樹木①

01_中央小学校のエノキ

岸和田市堺町 中央小学校内



背後にある歴史を感じさせる校舎とよく調和している。学校のシンボルツリーとして多くの卒業生のこころに残る樹木である。これからも在学生のシンボルとなってもらえるように、のびのびと繁ってほしい。

こころに残る樹木①

02_二の丸公園 マツ

岸和田市岸城町 岸和田城

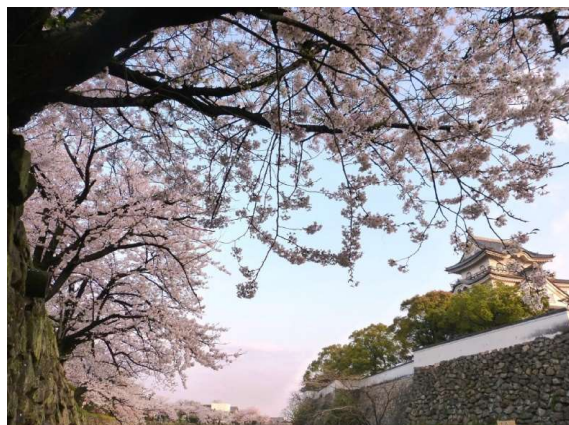


岸和田城に隣接し、歴史的なまちなみと調和するマツ林である。近年芝生化され、訪れる人の一層の憩いの場所となっている。親から子へ思い出が語り継がれるマツ林である。

こころに残る樹木②

03_岸和田城堀端の桜並木

岸和田市岸城町 岸和田城



ランドマークである岸和田城と、堀端の桜並木が作り出す景観は、岸和田市の象徴であり、城周辺の良好な景観をリードしている。開花時期には、「お城祭り」が催され、出店と花見を楽しむ多くの人々で賑わう。

こころに残る樹木②

04_上町の楠

非公開



高くそびえるこの楠は、個人の住宅地内にありながら、20メートルを超える高さがあり、道路からもよく見える。樹木の成長に合わせて、建築物の庇を削るなど、お住まいの方の心配りがうかがえる。周辺地域の良好な住宅地の景観を特徴づける樹木として価値を有している。

こころに残る樹木①

05_中央公園のモミジバフウ

岸和田市西之内町 中央公園



応募写真は紅葉の時期のものだが、冬の葉のない姿も、新緑の季節も楽しむことができる。公園内の並木であり、地域のシンボルになるというものではないが、中央公園の一部として岸和田の景観を形作っている。

こころに残る樹木②

06_中央公園のポプラ並木

岸和田市西之内町 中央公園



中央公園の外周には、隣接する住宅地の道路との境界に、ポプラが一直線に立ち並んでいる。全体として統一された樹容は目を引き、公園内で散歩やジョギング、そしてグラウンドゴルフを楽しむ人々をはじめ、多くの市民に広く親しまれている。

こころに残る樹木①

07_吉井町のエノキ

岸和田市吉井町2丁目



岸和田市景観重要樹木指定第3号

樹高は約15メートル、幹周りは4メートル近くあり、応募者のエピソードにもあるように、見るものを圧倒するような迫力がある。根元にある石塚と傍を流れる天の川とともにこの地域のシンボルとなる樹木である。

こころに残る樹木②

08_西向寺のいぶき

岸和田市土生町 西向寺境内



幹のダイナミックなうねりと、いぶきとしては、たぐい稀な大きさに、生命力と迫力を感じた。また、巨木の枝を支える支柱も鋼製で組み立てられており、樹木の維持管理に所有者の配慮がうかがえる。毎年いぶきを囲んで盆踊りが行われ、岸和田の民俗文化を支えるとともに、本堂などの境内の建築物とあわせて岸和田の歴史的・文化的な景観を創出している。

09_流木墓園の桜並木

岸和田市流木町 流木墓園



流木墓園の桜並木は誰もが自由に通り抜けることができ、春には豊かな桜のトンネルをつくる。開花時期にはカメラを片手にたくさんの人が花見を楽しんでいる。また季節を問わず、桜並木は先祖の墓参りに訪れる多くの人の心に残り、世代を超えて岸和田市民に親しまれ愛されている。普段は鎮魂の場として、また桜の開花時は行楽の人々でにぎわう深く市民生活に溶け込んだ景観である。

10_奥家の棕

岸和田市阿間河滝町

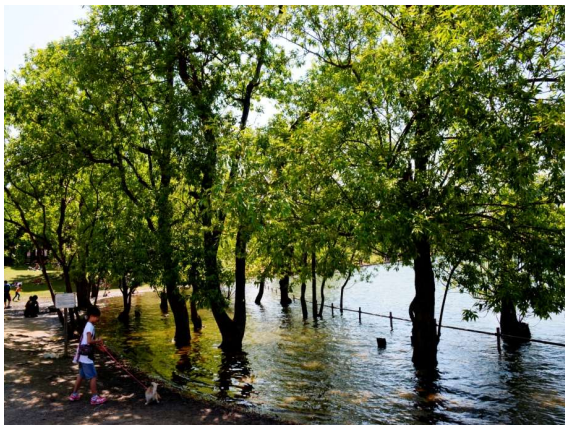


岸和田市景観重要樹木指定第1号

葉が茂り苔が生えていて、より迫力があつた。阿間河滝町は岸和田の中でも、古くから石垣が連なる特徴のある町並みを形成しており、棕の大きな木が旧家の門前に堂々と枝を伸ばす姿は、岸和田の歴史的・文化的な景観を特徴づけている。

11_蜻蛉池公園のヤナギ

岸和田市三ヶ山町 府営蜻蛉池公園



ヤナギの木陰では人々が憩う光景が見られ、市民生活の中で親しまれ愛されている水辺の景観となっている。またヤナギ付近では水鳥が泳ぐ光景が見られるなど、おだやかな自然を感じる樹木景観である。

12_蜻蛉池公園のメタセコイア

岸和田市三ヶ山町 府営蜻蛉池公園



応募された写真は公園の高台から撮られたものだが、近くから見ても周辺の樹木とよく調和している。公園内の樹木で、地域のシンボルとなるものではないが、蜻蛉池公園の一部として岸和田の景観を形作っている。

13_積川神社の棕と楠

岸和田市積川町 積川神社境内



積川神社は1500年以上の昔、崇神天皇の時代に創立されたと伝わり、本殿は文化財保護法による重要文化財に指定されている。また前面は旧牛滝街道であり、鳥居を挟んでそびえる棕と楠は、神社の厳かな景観を形成し、多くの市民の目に触れる。また、積川神社は近隣住民にとっては10月祭礼などで馴染み深く、棕と楠もふるさとの原風景となっている。

14_大沢神社の杉

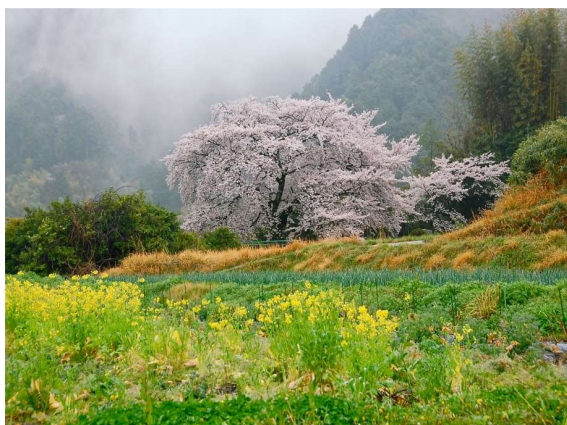
岸和田市大沢町 大沢神社境内



太くまっすぐな樹の幹は境内の奥まったところがあり、外の道路から簡単には見ることが出来ないが、鳥居をくぐり、奥の扉を開けると、祠を囲むように3本の杉の巨木がそびえたつ。大沢神社の杉は近隣住民が大切に守ってきたものであり、岸和田の歴史を考える上でも重要な鎮守の森の景観である。

15_塔原町・サクラ

岸和田市塔原町



岸和田市景観重要樹木指定第2号

背景には和泉葛城山があり、山の景観と調和しつつもサクラが咲く季節には山の緑との素晴らしい対比を創り出している。周辺には電線などもなく、自然景観を阻害する要因も少ない。また、周辺には農の景観が広がっており、春だけではなく夏の葉桜、秋の紅葉など周囲の里山風景を美しく演出している樹木である。

ここに残る**景観**資源

～ みち ～



<募集要件>

- ・歴史的な風情のあるみち景観
- ・海、山などの自然や里山と調和し魅力的なみち景観
- ・商業地や住宅地、工場地帯などのまちなかで魅力的なみち景観
- ・その他誰もが通行可能で豊かな生活を感じさせるみち景観

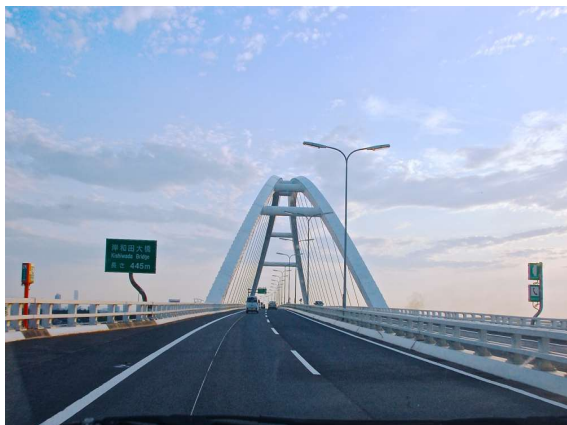
<指定までのあゆみ>

- ・応募件数83件
- ・まちかど審査延べ1458人
- ・学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が21件を指定

ここに残るみち①

01_岸和田大橋(阪神高速湾岸線)

岸和田市港緑町 阪神高速道路



岸和田ベイトモールから海側を眺めると全長455mの本アーチ橋の雄大な姿があり、エピソードに山手側の高台からも臨むことができるとあるように岸和田のウォーターフロントを印象付けるランドマークといえる。また、応募者の「外出から帰って来る時、あるいは海外からのお客様や岸和田を訪れる方がここを通る時、出迎えてくれるような岸和田のシンボルゲート」というコメントは印象深く感じた。

ここに残るみち②

02_岸和田港を望むみち

岸和田市港緑町



江戸時代には、既に海運で栄えたとの記録が残る岸和田港も、岸和田旧港再開発事業等によって、現在では様相を新たにしているが、この海沿いの道にはガス燈を模した街路灯や岸和田港が栄えた時代を象徴する「錨のモニュメント」そして、今も係留された舟を間近で見ることができ、潮の香りが漂うなか、この辺りをそぞろ歩きしながら眺める夕日もとても美しく、海辺のここに残る景観が広がっている。

ここに残るみち①

03_堺町だんじり小屋横

岸和田市堺町



エピソードに子供の時に通った路地で今でもだんじり見物の時に使っているとあるようにすぐ横に堺町のだんじり小屋、その先にはだんじり曳行を見ることができる。応募者にとってここに残る「みち景観」であるとともにこの路地から見えるだんじり祭りはすばらしいみち景観をつくり出している。

ここに残るみち①

04_お寺の道 (本町紀州街道)

岸和田市本町



江戸時代より、「城下町・岸和田」の商業の中心地として栄えた紀州街道にあたり、写真にあるお寺のほか、本瓦葺き・つし二階・出格子に代表される町家型住宅が連続して立地し、岸和田の歴史と文化を色濃く感じさせるみちとなっている。

05_南町のみち(紀州街道)

岸和田市南町



旧岸和田町の一部で、岸和田城下の一番南に位置することに由来する南町にあって商業の中心地として栄えた紀州街道には、蛸地蔵伝説を今に語り継ぐ天性寺参道の石灯籠やつし二階、出格子のある町家型住宅も散見され、岸和田の歴史・文化を今に伝えるまちとなっている。

06_春を待つ岸和田城の桜道

岸和田市岸城町 岸和田城



桜並木に彩られた堀端のみちは再整備のうえ、新たな城の写真撮影スポットも創出され、たくさんの観光客や市民が来訪する岸和田のシンボル「岸和田城の景観」を支える重要な要素となっている。

07_春木川遊歩道 (兵主神社横)

岸和田市西之内町



国の重要文化財である兵主神社の横を流れる春木川、その兩岸に遊歩道が整備され、神社社叢と擬木柵が施された春木川の間を縫うように続き、そのすぐ先には緑豊かな中央公園が広がっている。インターロッキング舗装が施されたこの水辺の遊歩道は、中央公園へ散策に訪れる人々を誘う健康ロードとしても利用されている。

08_久米田寺へ続くみち

岸和田市池尻町



光明塚古墳（市史跡）の脇を通り過ぎたところから久米田寺へと誘う路地は、ゆるやかにカーブを描きながら数十メートル続く。その両側は瓦葺の白い塀が流れるように連なり、塀越しには久米田寺の黒い雄大な大屋根が現れる。静寂と和風情緒に包まれ、文化財の集積する本エリアにあって、不思議で趣のある景観が演出されている。

09_久米田池遊歩道(平成26年度指定分)

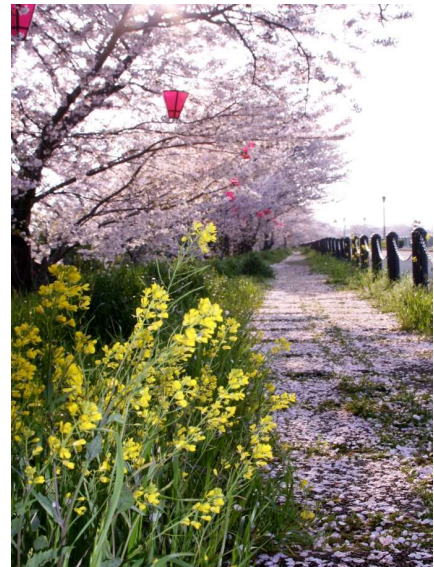
岸和田市池尻町



水面面積45.6haの雄大な久米田池（府史跡名勝）の周囲に設けられた遊歩道は桜並木や久米田寺（府史跡）とも相まって親水空間へたくさんの人々を誘っている。現地調査では猛暑にもかかわらず数人の方がジョギングを楽しむ姿が見られ、市民に親しまれている景観資源といえる。

10_久米田池遊歩道(平成27年度指定分)

岸和田市池尻町



「世界かんがい施設遺産」に指定され改めて歴史的価値が評価された雄大な久米田池は、桜並木や久米田寺などの自然に恵まれた文化的な価値の高い景観を有している。また、周囲の整備された久米田池遊歩道は、桜祭りや秋祭りの時期をはじめ、ウォーキングやジョギングを楽しむ多くの市民に利用され、親しまれる景観資源である。

11_東ヶ丘町グリーンベルト・花絨毯

岸和田市東ヶ丘町



写真は桜の咲く春の時期であるが、現地調査では緑の葉をつけた桜等が連なっており、日常管理も良くされていた。地域の財産として地元住民が大切に、花の咲く春を楽しみにして待っておられる姿が容易に想像された。並木の前の路上駐車にもお互いに気を付ければ一層すばらしい地域の誇りとなる景観といえる。

12_流木墓園桜並木みち

岸和田市流木町



ここに残る樹木として景観資源に指定した流木墓園の桜並木は、春には満開の桜のトンネルがカメラを持った多くの人々を楽しませている。墓参りに訪れる人々の故人との思い出や家族で行楽に訪れた時の記憶など様々な思いの詰まったこの桜並木みちはここに残るみち景観資源でもある。

13_阿間河滝町の阿弥陀寺への参道

岸和田市阿間河滝町



道の沿道を焼杉板の建物壁面と2～3mの石垣に支えられた瓦葺の漆喰塀の間を縫う歴史的な情緒あふれる阿弥陀寺への参道は、古い家並みの残る阿間河滝町にあり、ここを訪れる人々の興味を引く景観が映し出されている。

15_福田町のまちなみ

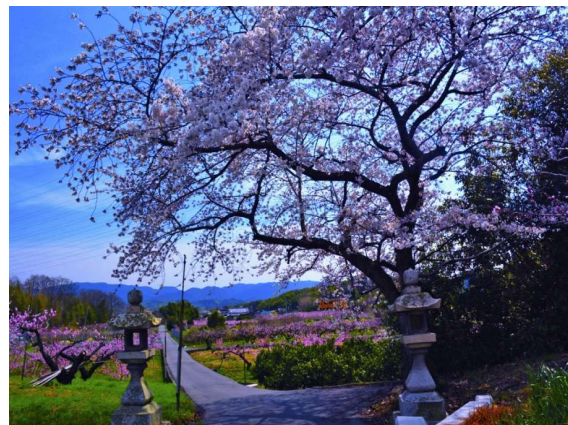
岸和田市福田町



福田町の集落には石垣積みの上に築かれた塀や焼杉板や漆喰を施した門長屋など古い伝統的な様式の家屋が多数受け継がれており、歴史街道を思わせるような趣のある坂道の景観が形成されている。

14_包近楠本神社もも花参道

岸和田市包近町



楠本神社の参道となるこの道沿いには桃畑が連なり、灯籠横の桜が存在感を示し、両者が融合したまったりとした空間を形成しており、その先にある社寺林へと続くほのぼのとしたみち景観である。

16_牛滝街道(積川町)

岸和田市積川町



歴史の道・牛滝街道沿いの積川町集落のなかに旧造り酒屋の酒蔵や主屋が建ち並ぶ情緒あふれる閑静なまち並みそして脇を流れる水路や土壁の塀が、より一層の風情を増しており、とても魅力的な景観を形成している。

17_バラの小道(蜻蛉池公園)

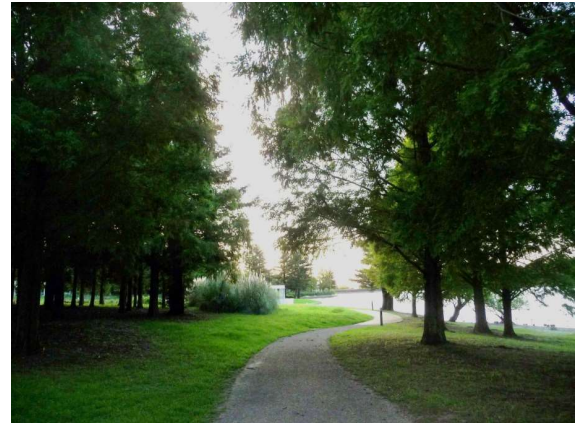
岸和田市三ヶ山町 府営蜻蛉池公園



本市の花である「バラ」が多く植えられた「蜻蛉池公園のバラ園」は、地域のシンボルにもなり、特に春・秋シーズンには、多くの人々が訪れる。バラの香りが漂うなか、バラのアーチをくぐると、道沿いにバラを配した先の池岸には、ガセボ（西洋風あずまや）があり、そして、白鳥の泳ぐ大池の風景が広がっている。

18_メタセコイアの小道(蜻蛉池公園)

岸和田市三ヶ山町 府営蜻蛉池公園



こころに残る樹木として景観資源に指定したメタセコイアは、大池までの園路に配置され、春夏には緑陰を秋には鮮やかな紅葉を、そして冬には落葉した幹枝が空に向かって伸びる雄大な樹形をくっきりと表わし、訪れる多くの方々を魅了する景観が形成されている。

19_相川ほたる遊歩道

岸和田市相川町



津田川沿いに設けられた遊歩道となっており、少し進めば棚田の風景が広がり、のどかな空間が形成されている。また、6月の蛍の飛び交う時期には多くの人が訪れ、一層魅力ある景観が創出されている。

20_牛滝いよやかの郷散策道

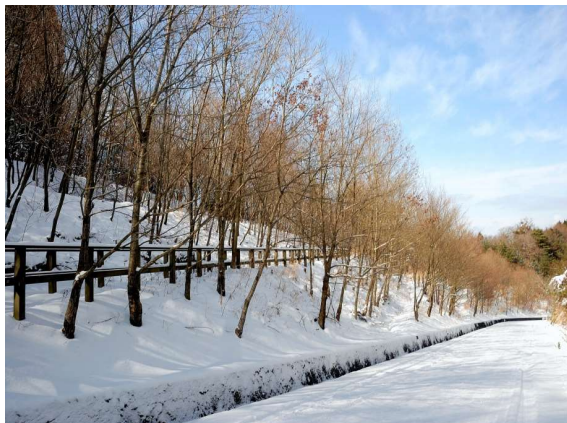
岸和田市大沢町 いよやかの郷



大威徳寺のすぐ横の滝から流れ出す牛滝川最上流にあたる水と緑豊かな溪流沿いに散策路が整備されている。右岸にはスギなどが繁茂する山の風景、左岸には桜や紅葉など四季の移ろいを感じさせる樹木に囲まれた「いよやかの郷」の温浴施設が隣接している。ここから臨む風景や鳥の鳴き声、温浴施設など視覚だけでなく、聴覚や知覚にもやさしく働きかける癒しが体感できる景観が繰り広げられている。

21_和泉葛城山登山道

岸和田市塔原町



この登山道を進む時、鳥のさえずりや緑の木立など豊かな自然を享受でき、ゴミも一切落ちておらず地域の人々の愛着を感じられた。特に山頂に近い北側斜面には国の天然記念物に指定されたブナ林が広がりその中を縫うようにボードウォークも整備されている。木々を傷めないよう配慮されたこのみちは、こうした貴重な景観へと誘っている。

ここに残る**景観**資源

～ 水辺 ～



<募集要件>

- ・豊かな生態系の育みが感じられるもの
- ・水辺とともに生きる人々の営みや四季折々の趣が感じられるもの
- ・海辺のウォーターフロント再生など、賑わいや親しみが感じられるもの
- ・歴史の風情や洗練された新しさにより魅力が感じられるもの

<指定までのあゆみ>

- ・応募件数119件
- ・まちかど審査延べ2202人
- ・学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が15件を指定

01_はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく

岸和田市地蔵浜町



岸和田を特徴づける漁港は、多くの漁船が整然と並び、人々の営みと賑わいを感じられる水辺である。特に大漁旗がたなびく風景は、航海の安全と大漁を祈願する新年の風習を今に伝えるものである。また、海産物を身近に買うことができるイベントなどが行われており、これからも地域住民に愛される景観として継承してもらいたい。

02_お堀と城下町

岸和田市岸城町



岸和田城の堀ごしに、歴史の風情を感じられる本町の美しい瓦屋根のまちなみを見ることができる水辺である。堀の水面にスイレンが一斉に咲き誇る時期には、写生や写真撮影に多くの人々が来訪され、四季折々の趣と親しみを感じることができる。岸和田城には視点場によって様々な魅力があり、まさに岸和田を代表する景観となっている。

03_岸和田城を彩る夏の華

岸和田市岸城町 岸和田城



夏の風物詩となっている港まつりの花火が水面に映り、岸和田城の前景となった美しい水辺である。修景整備された散策道の堀端から遠目に花火を楽しむ新たな名所として斬新さを感じた。多くの市民に愛され、岸和田を代表する景観としてこれからも岸和田城の新たな魅力を発掘してもらいたい。

04_岸和田城水辺

岸和田市岸城町 岸和田城



岸和田城堀端の水辺は、400年以上続く城下町の歴史の風情を感じられるスポットとして市民に親しまれている。まさに岸和田らしさを象徴する水辺である。また、現在は空にそびえる天守と苔むした石垣、周囲の桜や紅葉に彩られ、堀の四周どこからでも地域の魅力が効果的に伝わっており、今後も地域固有の魅力を感じさせる市民の誇りであってほしい水辺である。

05_久米田池の幻想的なハーモニー

岸和田市池尻町



久米田池は空と池の色彩が調和しており、幻想的な早朝の光景が非常に美しい。また野鳥の飛来や、ヘラサメ漁を行なう生活景観など、四季折々の趣がある。冬には多くの野鳥が見られ鳥の国際空港といえる光景や桜などの視点場が設けられており、散策やジョギングを楽しむ姿も見られた。また、維持管理を市民ボランティアが行うなど、今後も市民の力で魅力を持続してもらいたい水辺である。

06_水鳥と久米田池

岸和田市岡山町



地域の人々により維持管理されている久米田池は、多様な生態系を育み、親しみと賑わいのある水辺である。多くの野鳥が生息し、まちなかの貴重なオアシス空間として象徴的である。また、季節の移ろいや潮汐によりまた違った表情を見ることが出来る岸和田を代表する景観である。今後も、人々の営みや地域固有の魅力を感じさせてくれる景観が発掘されることを楽しみにしたい。

07_山直中町 錦秋のスリバチ池

岸和田市山直中町



錦秋のスリバチ池は、色とりどりの木々が水面に映り、幻想的な美しさが際立ち、四季折々の趣が感じられる水辺である。周囲の桃畑や祠など地域の人々に大切に守り継がれてきた景観は、水辺の魅力をより一層引き立たせるものである。今後、隣接するゆめみヶ丘のまちづくりが進み、新しいまちなみがこの池を引き立てるよう調和を図りつつ、そこに暮らす住民にも愛される景観として期待したい。

08_田治米町 ポピー咲くセツ池

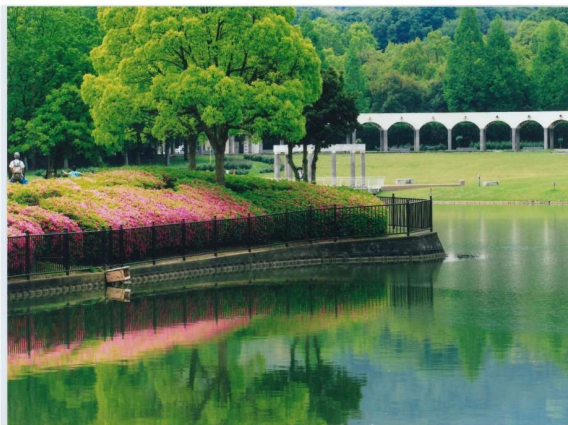
岸和田市田治米町



山並みと四季折々の季節が感じられ、開放的な眺望を満喫することができる水辺である。秋には、紅葉した木々が湖面を美しく彩っており、周囲の農地と調和した豊かな自然を感じながら、静寂の中に小鳥のさえずりが心地よく聞こえ、神於山や和泉葛城山系などの遠景も楽しめる景観である。

09_蜻蛉池公園大池の水鏡

岸和田市三ヶ山町 府営蜻蛉池公園



蜻蛉池公園内の大池周辺は、夏はさつきの花や新緑、冬は落葉した樹木や透き通るような美しい光など四季折々の自然を手軽に感じることができる水辺である。良く手入れ整備された樹木や花々、秋に飛来する水鳥が季節ごとの魅力的な表情を作り出しており、市民に愛される水辺となっていると感じられた。今後も、豊かな自然が身近に感じられる場所としてどなたにも観ていただきたい水辺である。

10_積川町 水路のある古の町並み

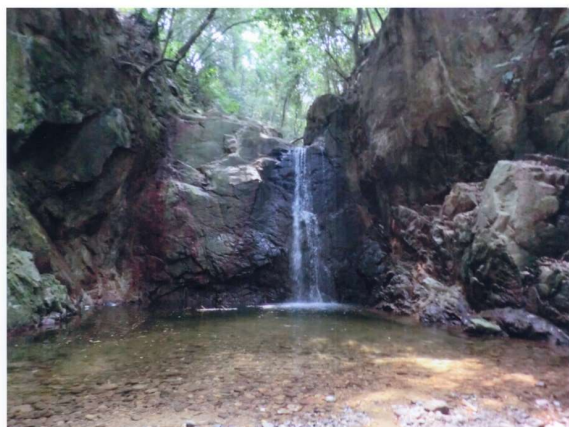
岸和田市積川町



積川町にあるこの水路は、周辺の旧家の町並みと一体的な景観を形成しており歴史の風情を感じさせる水辺である。ゴミひとつなく良好に維持管理がなされていることから、この水路は地域住民にとって心を癒す水辺として親しまれているように思えた。現在まで農業用水路として、地域の人々に大切に守られ続けている。美しいまちなみと共に将来に継承すべき水辺である。

11_意賀美神社横 雨降りの滝

岸和田市土生滝町 意賀美神社境内



雨乞いの神として地域の人々に信仰されてきた意賀美神社の雨降りの滝は、深緑の中で見ると大変神々しく、歴史の風情と豊かな生態系を感じさせる水辺である。意賀美神社の境内は、夏でもひんやりとしており、日常から隔離された別世界のようにであった。人の手がほとんど入らない自然のままの滝は地域固有の魅力を効果的に伝えており、今後も多くの人に知ってもらいたい水辺である。

12_内畑町 田んぼへの水引きの始まり

岸和田市内畑町



古民家が立ち並ぶ集落内の水路には透き通った水が流れ、自然の恵みと人々の営みが感じられる水辺である。蔵や民家などの歴史的な風情が管理の行き届いた水路と相まって地域固有の趣が感じられる。長い年月を経て培われたこの景観をいつまでも守り継いでもらいたい。

13_大沢町 サギも降り立つ棚田

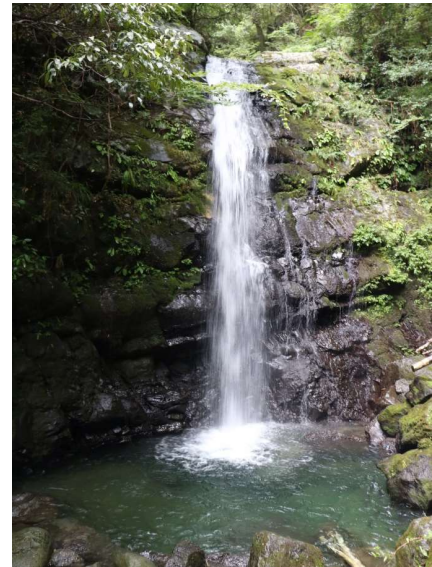
岸和田市大沢町



周囲の山々の表情の移り変わりや稲作などを通じ、四季折々の趣を感じさせる水辺である。現地を訪れた際には、田に水は無かったが、水が張られた棚田の美しさは想像に難くなかった。また、地域を訪れる観光客にも親しまれていると感じられた。地形を活かした棚田は、地域固有のふるさとも感じさせる魅力が効果的に伝わる風景を形成しており、今後もここ和む水辺であってほしい。

14_牛滝山大威徳寺 一の滝

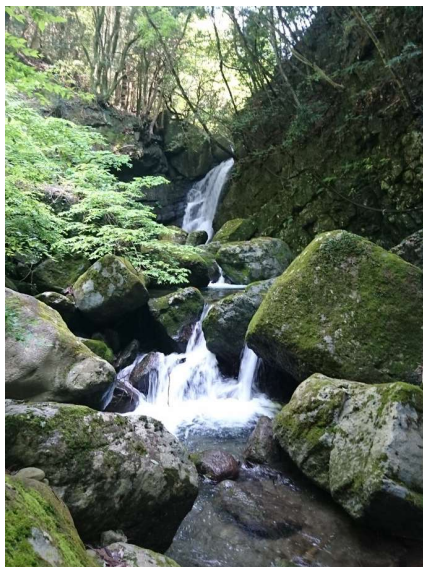
岸和田市大沢町 大威徳寺



紅葉の名勝として古くから知られる牛滝山大威徳寺と一体をなす「一の滝」は、和泉名所図会にもあるように歴史の重厚さを感じる水辺である。四季折々の趣と葛城修験場の静寂のなか、落差のある滝は句碑に詠まれるように迫力があり、視覚のみならず五感を楽しませてくれる。古刹とともに多くの人々に訪れてもらいたい景観である。

15_牛滝の谷にそそぐ錦流の滝

岸和田市大沢町



錦流の滝は、古くから岸和田を代表する景観として、岸和田八景（小川翠村）にも描かれている水辺である。苔むした岩場を縫うように流れる川は、まさに錦の様な美しさである。溪流沿いを散策し、緑豊かな自然を楽しみながら出会うことができる景観である。

ここに残る**景観**資源

～ まち ～



<募集要件>

- ・まちや地域を特徴づける、または核となる景観要素として魅力が感じられるまち景観
- ・暮らしやなりわい、営み、産業など身近にあり魅力的であると感じられるまち景観
- ・歴史の風情や洗練された新しさにより魅力が感じられるまち景観
- ・賑わいや親しみ、四季折々の趣が感じられるまち景観

<指定までのあゆみ>

- ・応募件数81件
- ・まちかど審査延べ2818人
- ・学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が19件を指定

01_時を超えて(春木中学校の赤レンガ塀)

岸和田市松風町



春木中学校には、春木地区の歴史を今に伝える赤レンガ塀が今も残り、印象深いまち景観である。百メートル余り続く赤レンガ塀は、大正時代に建造され、泉州の経済を支えた産業遺産として興味深いものである。卒業生や在校生を見守り続けている春木地区のシンボルとして、これからも受け継いでいてもらいたい。

02_春木西福寺

岸和田市春木本町



西福寺は、紀州街道から境内へと続く参道の松並木が美しい特徴的なまち景観である。

時代の経過とともに周辺の街並みが変わっても、往時を偲ばせる参道は地域の人々を温かく迎えてくれる。

今後も、春木の人々の思いを紡ぎ、いつまでも地域のシンボルとして親しまれる景観であり続けることを願いたい。

03_北町 寺町筋

岸和田市北町



寺町筋は、寺院が立ち並ぶ歴史の重厚さを感じるまち景観である。修景整備されたまちなみは、訪れる人々を魅了し、ひと時の安らぎをもたらすことだろう。寺町の成り立ちや寺院の由緒に思いを馳せながら、まち歩きを楽しんでももらいたい。

04_中町 城跡の名残り

岸和田市中町



公園で遊ぶ子供たちの傍らには、岸和田城の防潮堤として築かれたとされる石垣の一部が残されており、今に城郭の往時の姿を伝えているまち景観である。まちの姿は日々変わっていくが、古の人々の営みを示す生き証人としてこれからも守り続けてもらいたい。

05_本町のまちなみ

岸和田市本町



本町の紀州街道沿いは、城下町の風情が今も残り岸和田を象徴するまち景観である。往時の町家や「本町のまちづくりを考える会」の修景によりまちなみが保全され、本町への愛着が感じられる。郷土への誇りと愛着が込められたこの歴史的なまちなみを、いつまでも継承してもらいたい。

06_岸城町 マンサード長屋

岸和田市岸城町



人々の暮らしが息づくマンサード長屋は、子どもの好奇心をくすぐる印象的なまち景観である。大正時代に建築された洋風長屋は、往時の息遣いと住民の愛着が感じられ、地域の景観的シンボルとなっている。周辺には、様々な時代様式の建造物が数多く残されており、岸和田の歴史の歩みを知るうえでも貴重な存在である。

07_宮本町 城見橋への道

岸和田市宮本町



古の城郭を今に伝える城見橋へと続くまちなみの一角に、町家と漆喰の蔵が印象的なまち景観を見ることができる。道路を挟んで立ち並ぶ建造物は、歴史の趣を感じさせつつ、景観への配慮を周辺にもたらしめている。城下町ならではの魅力を効果的に伝える視点場として、これからも大切に保全願いたい。

08_元旦の朝日に映える岸和田城

岸和田市岸城町



岸和田のシンボルといえる岸和田城は、国籍を問わず歴史の風情を共感できるまち景観である。元日の朝日を受けて浮かびあがる天守のシルエットは神々しく、また、これからも人々の思い出に刻まれ続けることだろう。岸和田市民に愛され、ここに残る岸和田城の魅力を、多くの海外の人々にも知ってもらいたい。

09_輝く岸和田城

岸和田市岸城町



本町の紀州街道沿いは、城下町の風情が今も残り岸和田を象徴するまち景観である。往時の町家や「本町のまちづくりを考える会」の修景によりまちなみが保全され、本町への愛着が感じられる。郷土への誇りと愛着が込められたこの歴史的なまちなみを、いつまでも継承してもらいたい。

10_岸城町 十六軒長屋

岸和田市岸城町



大正時代に建造された十六軒長屋は、人々の営みが垣間見える印象的なまち景観である。百数十メートルに及ぶ長屋が連なるまちなみはまさに圧巻であり、この景観が今日まで保全されていることに敬意を表したい。これからも息づかいを感じさせるかけがえないまちなみを守り続けてもらいたい。

11_蛸地蔵伝説を伝えるレトロ建築

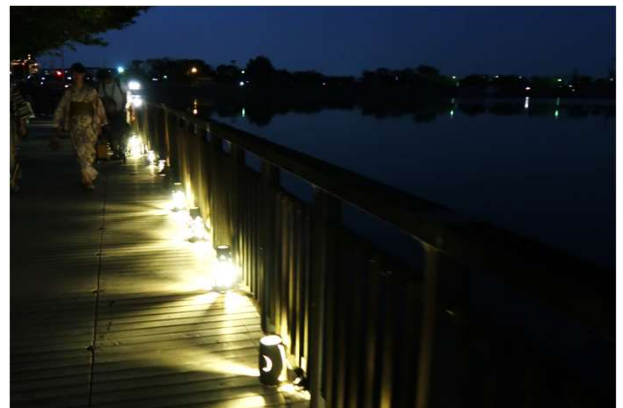
岸和田市岸城町 南海蛸地蔵駅



蛸地蔵伝説を今に伝えるステンドグラスが装飾された南海蛸地蔵駅は、歴史的建造物が多く残る地域のまち景観を象徴する建物である。商店街の街並みをリードし、大正時代から現存する建築物として貴重な存在となっている。岸和田城から続く閑静な住宅街や蛸地蔵商店街のシンボルとしてこれからも大切に維持願いたい。

12_久米田池の夏祭り

岸和田市池尻町



地域の人々により行われる久米田池の夏祭りは、笑顔あふれる夏の風物詩として賑わいと郷土愛を感じるまち景観である。日中から様々な催しが始まり、遊歩道に並べられた手作りの灯籠に火が灯されるころ、花火が水面を彩り、訪れた人々の拍手や歓声が鳴り響く光景は人々の心に深く刻まれることだろう。久米田池は、これからも様々な人々の関わりや営みにより守り継がれ、愛着ある地域のシンボルとして次世代に紡いでもらいたい景観資源である。

13_泉光寺と桜

岸和田市門前町



岸和田藩主の菩提寺として高名な泉光寺は、四季折々の趣と歴史の重厚さを感じるまち景観である。桜や紅葉とのコントラストが美しい山門と、歴代藩主の五輪塔が整然と並ぶ風景が印象的である。これからも市民の誇りとしてこの景観を受け継ぎ、また、多くの人々に訪れてもらいたい。

14_日没前（山直南校区）

非公開



丘の上から見渡す山並みや集落から人々の生業が感じられ、夕日と水田のコントラストが印象的なまち景観である。昼間に見える街並みが、日没とともに影となり、稜線のシルエットが美しいまち景観を眺望できる視点場であった。今後も地域の暮らしや営みが魅力的に伝わるまち景観として維持してもらいたい。

15_積川町 元本街道のまちなみ

岸和田市岸城町 南海蛸地蔵駅



時を経て受け継がれてきた土塀と門長屋は、酒蔵として賑わっていた往時を偲ばせるまち景観である。これまでもここに残る景観資源として指定されており、それぞれの景観要素が織り成す風情は評価されるべきものである。積み重ねられた歴史の重厚さと静寂のなかで、せせらぎが醸し出すまち景観を、これからも守り続けてもらいたい。

16_阿間河滝町 長屋門坂

岸和田市池尻町



坂のあるまちとして知られる阿間河滝町を代表する長屋門は、自然の地形を活かしたまちなみを象徴するまち景観である。人々の暮らしが息づくまちなみは、郷土への愛着と誇りが感じられ、敬意を抱かずにはいられない。石垣と階段状に建てられた長屋門、伝統的なしころ建て母屋など、地域のアイデンティティをこれからも守り続けてもらいたい。

17_夕暮れの北阪

岸和田市北阪町



知る人が少ないであろう北阪八幡宮は、その境内から望む大阪湾への眺望が印象的なまち景観である。参道を彩る植栽や境内地は、綺麗に管理されており北阪の人々の親しみと愛情が感じられる。地域の人々に守り育まれたこの風景を、多くの人々に知っていただきたい。

18_神於寺の参道

岸和田市神於町



古くから、人々に信仰の対象として崇められている神於山の南麓にある神於寺への参道は、桜をはじめとして四季の趣きを感じる事が出来るまち景観である。参道を登ると町並みや和泉葛城山系を一望できる眺望が広がり、由緒ある寺院とともに訪れた人々の印象に残ることだろう。これからも地域とともに悠久の時間を刻みつづける景観を守り継いでもらいたい。

19_白原峠の星祭り（東葛城にて）

岸和田市上白原町



集落を縦断する坂の頂上部にある広場では、地域の人々が七夕の日に色とりどりの短冊に願いを込め、笹を飾り付ける。白原峠と名付けられたこの広場には、昔から人々の営みが見られ、往時の賑わいを偲ばせる。季節に応じた取組に地域のつながりが感じられ、いつまでも継承してもらいたいまち景観である。

こころに残る**景観**資源

～ ひとの営み ～



<募集要件>

- ・暮らしや生活など人々の身近にあり、魅力的であると感じられるもの
- ・地域の営みや産業、文化が感じられるもの
- ・歴史や伝統を感じさせ、地域の賑わいを特徴づけるもの
- ・四季折々の趣があり、賑わいや親しみが感じられるもの

<指定までのあゆみ>

- ・応募件数49件
- ・まちかど審査延べ1262人
- ・学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が10件を指定

01_たくさん釣りたい

岸和田市木材町



木材コンビナートの白灯台があるこの場所は、岸和田市内の釣り人の誰もが知っており、親しまれている場所である。魚釣りは昔からある手軽なレジャーとしての営みであり、深く市民生活に溶け込んだ景観となっている。

02_春の訪れを告げる「いかなご」漁

岸和田市地蔵浜町



岸和田漁港では鰯巾着網漁業を主としており、大阪府下でも上位の水揚げ量を誇っている。きれいに漁船が並ぶ港は、日々自然と向き合って作業をする漁師の方々の活気と、マルシェにやってくる人たちの賑わいが感じられる。今後も岸和田の象徴となるひとの営み景観を受け継いでいってもらいたい。

03_農業まつり

岸和田市西之内町



中央公園で開催される行事の一つとして、30年来開催されてきた農業まつりがある。当日は農産物の直売所などたくさんの催しがあり、多くの市民が集まる一大イベントになっている。また、公園内の樹木などもきれいに管理されており、自然と人々が織りなす営みや賑わいが色濃く感じられるひとの営み景観である。

04_岸和田観音 節分

岸和田市五軒屋町



古より災害や疫病から身を守るために祈ってきた人々の様子がわかり、歴史と賑わいが感じられる営み景観である。境内は普段から美しく管理されており、市民の暮らしに溶け込みながらも四季折々の趣が感じられる。後世に継承してもらいたい景観である。

05_頼もしい応援団と歴史的まちなみ（本町）

岸和田市本町



だんじりの後ろを追いかける応援団の存在は、地町への愛着や賑わいや親しみを感じさせてくれる。古くから受け継がれてきた歴史的なまちなみと祭りの風景は、今も昔も地元の方々から愛され、生活に溶け込んだ景観である。今後も地域固有の魅力を感じさせる市民の誇りであってほしい。

06_岸和田城とだんじり祭り

岸和田市岸城町



岸和田だんじり祭りは市民が一番集まり関わっている岸和田ならではの人の営みであり、歴史や伝統、賑わいや親しみを感じられる。また、岸和田城は岸和田のシンボルであり、城と祭りは市民にとって欠かせないものである。今後も、地域固有の魅力を感じさせる市民の誇りであってほしい景観である。

07_古代の人々の営みを思い私たちは確かめる

岸和田市池尻町



久米田寺に隣接する久米田公園内に貝吹山古墳、風吹山古墳、無名塚古墳があり、その周辺にもいくつかの古墳が存在することから、その地域は久米田古墳群と言われ、大阪府の史跡名勝にも指定されている。小高い古墳の上に立ったとき、古代のロマンと現代との結びつきが感じられた。これからは後世に語り継いでほしい。

08_久米田寺千本搦き

岸和田市池尻町



久米田寺では、お正月の恒例行事として「千本搦き」が行なわれている。多くの子ども達が、一斉に棒状の杵で餅を持ち上げる様子はとても楽しげでまた誇らしげでもある。歴史あるお寺での行事は、地域の子ども達にとっても歴史を感じられ、岸和田の歴史と文化を色濃く感じさせる景観になっている。

09_田を潤す久米田池

岸和田市池尻町



世界かんがい施設遺産などに指定されている久米田池は、僧行基によって造られてから何百年もの期間、田を潤し米を育て、人々の生活を支えてきた池である。今も昔も変わらず、地域の人々の農の営みを支えており、今後も生活景として地域に馴染んで語り継がれていくことを期待する。

10_東葛城小学校・幼稚園（東葛ふれあいファーム）の田植え風景

岸和田市河合町



神於山の麓にある農地の一角に「東葛ふれあいファーム」がある。農業体験は非常に良い取り組みで、子ども達にとっても貴重な体験であり、いい思い出となるだろう。学校と地域の繋がりが感じられるひとの営み景観である。

こころに残る**景観**資源 ～ 応募者エピソード集 ～



まちかど審査では、
応募いただいた写真とエピソードを
多くの方々にご覧頂いています



まちかど審査でアンケートにお答え頂いた方々に、
景観資源のポストカードをプレゼント！



ちきりくんのこころに残る景観を巡る旅
「ちきちきwalk」

< 応募いただいた景観資源 >

- ・ 応募総件数443件
- ・ まちかど審査に参加頂いた方 延べ8,257人
- ・ 学識経験者の審査を経て、特に優れた景観資源について市長が指定した件数 80件

※「こころに残る景観資源発掘プロジェクト」のタイトル及びエピソードは応募原文のままとしています。

ここに残る樹木景観



1. 中央小学校の
エノキ

◆現在93歳の母の小学校時代に存在したようだが大きさは記憶にないようだ。知人の93歳の方は、その頃すでに大きなエノキだったと記憶していた。また、別の65歳の知人は、学校に行ったらエノキの前で、DDTを頭にふられたことがある。という風にそれぞれ、エノキを覚えていて、その時の出来事を思い出している。おそらく、講堂が建てられた時に植えられたと考えられる。現在も建っている鉄筋の建物の前だ。（応募者：71歳／男性）

◆友達といっぱい遊んだ後えのきの下のかげで休めるおすすめの木。（応募者：10歳／女性）



2. ニの丸公園
マツ

私が小さい頃、よく両親と散歩に訪れました。猿に飽きると、今度は木登りです。この松の木だけが、少し曲がっていて、登り易くなっています。小さい頃は、親父に、上げてもらいました。小学校も高学年になると自分で登りました。自転車の練習もここでしました。こけても下が土なので安心です。公園には売店もあり、この木の上で食べたものでした。時間が進み、私が父親になり、子供が出来て、やはり、同じ事を、わが子にもするのですね。ベビーカーを押しながら、猿さんと遊び、まだ小さい我子に木登りを強要する。勿論、自転車の練習もこの場所で行いました。二の丸広場の「松の木は」私たち家族を長年、見続けてくれています。花が咲くわけでもなく、紅葉するわけでもない、松の木。世代が変わってもこの場所に有って欲しいですね。息子も25歳、次は孫を連れて、木登りですね。その日が来るまでお願いしますよ。（応募者：50歳／男性）



3. 岸和田城堀端
の桜並木

私の住む町内の桜。小さい頃の散歩は、やっぱりこの場所。七五三で岸城神社へお参りするときも、この場所で写真撮影。勿論、お正月も、中学・高校と学年が進んでも、この場所で撮影。（咲いていない時も）桜を見ると、元気が出ます。これから訪れる季節に感謝する。日本人と桜は、切り離せない何かがある。優しい気持ちになる。毎年、テレビで桜中継が、和歌山城、大阪城と盛ん。「岸和田城も有るのに」と心の中でつぶやく。昨年終了した、HNK連続テレビ小説「カーネーション」。放送直後から、岸和田城を訪れる、観光客は多くなった。私のふるさと、「岸和田市」岸和田城を見られて、ちょっと照れくさい。（応募者：50歳／男性）



4. 上町の楠

岸和田城天守閣より、東南（山側）約500メートルの古い民家の敷地内に植えられた3本の大きな楠を見ることができます。寛文6年（1666年）、岸和田城主岡部行隆の時代に、城内を整備拡張する際、岸城神社の山側の『上町』に住んでいた8軒を強制的に現在の新町に移転させました。



5. 中央公園の
モミジバフウ



6. 中央公園の
ポプラ並木

この史実から、3本のクスノキの樹齢は約345年と考えられ、新町の西北の境界線上に並んで植えられています。上町の古い民家は全て東南向きに建てられ、楠は民家の裏側を隠す役目もしているようです。新町周辺には計5本の楠が現存しています。新町内のすべての道は狭く、人が一人通れるほどの幅で、新町の内外には約20箇所の枅形が設けられ迷路のようで外敵の侵入と行動を妨げるための防御施設であったと考えられます。楠も戦略上かの役目を果たしていたのかもしれませんが。実際、新町を含む上町（池の尻・小寺）全体も南北両端を流れる古城川と西隅に位置する大池（おいけ）と山側の城が池、周囲の湿地帯に守られた岸和田城山手の防御線。要塞のようです。また、地形・文献・伝承・隣接の古城跡の発掘調査などから、建武元年（1334）に名将、知将と呼ばれた楠正成の一族、和田高家が居城（砦）を構築したのは新町であり、岸和田のルーツはこの地であった可能性が高いと思われます。（応募者：76歳／男性）

秋、中央公園もたくさんの樹木が色づき華やかに饗宴してくれます。アメリカフウの並木は、70メートルくらいかな。80メートルくらいかな。紅く色づいたとき、時計台をそとのぞき見しながら歩くのは、ロマンチックです。ちょっと歩いてみませんか。うれしい数分です（新緑時によし）。（応募者：76歳／男性）

◆中央公園は犬の散歩で毎日訪れますが、多くの木々が植えられており、季節の移り変わりが植物を通じて楽しめるのがいいですね。中でもこのポプラ並木はダイナミック。ポプラの微かな香りを感じながら、この大きな木の下を歩くと小さな悩みは、しばし忘れてしまいます。（応募者：57歳／女性）

◆私の大好きな本に『木も大きな花を咲かせ、皆の心を楽しませてくれる。人間も何か人のためにならなければならぬ。』と。中央公園の“ポプラ並木”。空高く緑したたり、21本が風に乗りウェーブを作る。葉の音律が笑っているような、歌っているような。八木橋を渡る瞬間、左前方が圧巻。この道は“励ましの道”（応募者：64歳／女性）



7. 吉井町のエノキ

岸和田市の北端、忠岡町と隣合う吉井町地区にある樹齢100年は超えると思われるエノキの大樹。夏は15m四方に鬱蒼とした葉を広げ、冬は一切の葉を落として天に向かって枝を広げている様は見る物を圧倒する。主幹の幹周りは約4m。根元の丑神白鶴大明神の石塚とともに、変遷激しい新興地区にあり、変わらぬ姿で吉井の人々の暮らしを見つめている。旧家加守田邸に隣接しているが、天の川の小さな橋を渡れば誰でも見ることができる。（応募者：65歳／男性）

こころに残る樹木景観



8. 西向寺のいばき

お寺の境内に入るとすぐ目に留まるこのカイヅカイブキ。大きさもさることながら、うねるような幹が圧倒的な生命力を感じさせます。(応募者：38歳／男性)



9. 流木墓園の桜並木

◆先祖のお墓が、流木に有るせいでしょうか、小さい頃から、よく、両親に連れて行かれました。車が余り通らないのも良いですね。静かで広い公園のようです。墓地との仕切りは無いですが、そんなことは気にしない。青々した、芝生では無い、遊具も無い、でもこの広さがいい。春には、桜並木が大変綺麗。何処の観光地にも負けない。ここは、墓？と疑う位、賑やかになる。お弁当を広げる場所がないと、ドンドン、先に進みついには、よそ様の、お墓の階段に、腰を下ろす始末。本当に面白い光景です。この春も、弁当を持って出かけます。(応募者：50歳／男性)

◆トンネル桜並木、岸和田では一番長くすばらしく美しいヤッホー。岸和田の桜名所、いったい幾つあるんだと、岸和田住民になって最後に探し行きたい名所がここだったと、いまに思うよ。墓地は今のところ、関係ないと思いつつ、桜咲くとつい、足が向き、心がはじく。ここで味わった、華吹雪は忘れられない絶景、髪の毛染まり、顔花けしよう、心ウキウキ、お手手バンザイ、足さん浮足、通り抜け。(応募者：73歳／男性)



10. 奥家の棕

古い街並みと坂道と石垣の街、阿間河滝が好きで時々散策に寄っている。その中でも特に好きなのが、この奥家の棕の樹。樹齢何百年の風格を漂わせている。大きな堅い樹皮に耳を寄せると心臓の鼓動のような音が聞こえる。太い幹や、逞しい根に触れていると力を頂けるようだ。岸和田の隠れた、パワースポットだ。(応募者：67歳／男性)



11. 蜻蛉池公園のヤナギ

水中に生きる樹木、白鳥やカモ類、季節ごとに飛来する鳥たちが、シロヤナギが覆う水面で、はしゃぐ、一緒に遊ぶ人の子供たちも紫外線を避けられ、楽しく遊べる、感謝の樹木である。この樹木を取り入れた担当者の気持ちが、わたしのこころに伝わってくる。鳥さんの喜びも心に響く、いつまでもいつまでも、このシロヤナギが生き生きとし、私たちも喜ばせてくれることを、シロヤナギさんに祈願する。蜻蛉池公園は鳥たちと、いつまでも人々の心に残る極楽の郷である。(応募者：73歳／男性)



「人は、木に寄り添うと心が安らぐ」と言われますが、木と、その木に寄り添っている人を眺めているだけでも、やはり安らぎを覚えるということを見(？)させてくれた木です。高い位置からの眺め、しかも落葉の季節でないと実感することができません。(応募者：61歳／男性)



13. 種川神社の棕と楠

12. 蜻蛉池公園のメタセコイア

◆岸和田市、秋のだんじり祭で毎年賑わいます神輿とだんじり曳行の活気盛んな時や宮参りの種川神社境内に聳える(そびえる)樹木はおよそ樹齢800年のムクノキ、そして樹齢80年のクスノキなど。その他シイノキや数々大木の鎮守の森が有り、周辺には、大木を加工したベンチなど設置されている。憩いの広場で腰掛けて眺める壮観は誠に心が和みます。(応募者：76歳／男性)

◆鳥居を挟んで大樹木。この姿に心踊らない参拝者はいないだろう。そしてその思いはこころに残る、忘れられない人生、私の一生もムクノキの根元に座って、樹齢850年の歴史をこころに収めたい。クスノキに登る、天まで登る力が！創造の世界に夢を見る。鳥居に覆いかぶさるクスノキの生命カームクスノキに負けず、人生に目標と達成感が宿る。(応募者：73歳／男性)



14. 大沢神社の杉

大沢神社の3本の杉は、岸和田にもこんなに大きな杉があったのかという驚きとともに見る者を敬虔な気持ちにさせてくれます。『いよやか郷』へ訪れる際は一度立ち寄ってみて下さい。(応募者：38歳／男性)



15. 塔原町・サクラ

塔原町の高台にある一本桜。村の共同墓地の傍らに佇み、人々の営みをひとり何年も見つめ続けている。標高が高いためか、ほかの岸和田の桜より1週間ほど遅咲きである。(応募者：49歳／男性)

こころに残るみち景観



1. 岸和田大橋(阪神高速湾岸線)

阪神高速湾岸線の岸和田大橋の優雅な姿は、市内の浜側からはもちろん山手側からも高台から臨むことができる。秋には祭の背景として、夏には花火が浮き上がらせるシルエットとして、多くの人々の心に刻み込まれている。また、この橋は岸和田から自動車で行く旅に出る人、そして旅から戻ってくる人にとって街を代表するランドスケープでもある。さらに最近は海外からの訪問者を乗せた車が行き来する岸和田のシンボルゲートとして、多くの人々の心に刻み込まれている。(応募者：51歳／男性)

こころに残るみち景観



2. 岸和田港を
望むみち

「海」を手軽に感じることができる「みち」だと思います。私にとっては小学生のころまで遊んだ懐かしく思い出深い場所でもあります。大工町辺りの砂浜で遊んだあと、波の音を聞きながらこの岸和田港まで歩きました。今では砂浜がなくなり、港の構築物なども大きく様変わりしましたが、ここが海の匂いを間近に体感できる場であることに変わりはありません。また、整備された遊歩道も美しく、ここから眺める夕日は必見です。岸和田港は岸和田市のシンボル・遺産として、これからも永く歴史を重ねていってほしいです。(応募者：64歳／男性)



3. 堺町
だんじり小屋横

子供の頃、堺町だんじり小屋横の路地は浜から町への抜け道に使っていました。大人になった今でもだんじり見物の時には使っている道です。子供に受け継ぎたいですね。(応募者：36歳／男性)



4. お寺の道
(本町紀州街道)

はじめて通った道だったけど、子どもの頃を思い出した。(応募者：69歳／男性)



5. 南町のみち
(紀州街道)

天性寺(蛸地蔵)参道や丸型ポストのある南町の「みち」です。お隣の本町で生まれ育った私には、このあたりも子供のころの遊び場でした。最近ではだんじり祭りのときに訪れるくらいとなってしまいましたが、今でもここに立つと小さな自転車でこの道を何度も往復したことや、天性寺にお参りされている方々の様子を不思議さと憧れの目で眺めていたことなどを懐かしく思い出します。ここは民家の佇まいや石灯籠、ポストだけではなく道路や電柱、電線なども含め、私が「昭和」を強く感じる「みち」でもあります。(応募者：64歳／男性)



6. 春を待つ岸和田城
の桜道

もう何年咲いたことだろう。黒く太い古木がしっかりと支えられている。それでも幹から美しい花が吹き出していた。若木は倒れないように紐で結ばれている。若い木は一輪 二輪と咲き始めたばかり。毎年満開の桜を楽しんできた堀のまわりは今、世代交代を始めているようだった。岸和田城はいつもと変わらない様子で見守っていた。さわやかな気持ちで歩いた今日この日の道・・・(応募者：75歳／女性)



7. 春木川遊歩道
(兵主神社横)

この遊歩道は中央公園をウォーキングした帰りに通る道です。横には兵主神社があり、時々ですが家族の健康をお願いにお参りします。(応募者：72歳／男性)



8. 久米田寺へ
続くみち

久米田寺には子供の頃から何度もお参りさせてもらっていますが、いつも山門や駐車場から(つまり久米田池側から)境内に入っていました。そのため、このような趣のある「みち」が池の反対側にあったことを最近までは、まったく知りませんでした。趣味のクラブの先輩にこの道を教えてもらいましたが、清楚で、ちょっとミステリアスな雰囲気がとても印象的で、すぐに私のお気に入りの場所となりました。また、狭い道なので、知らない人同士でもすれ違う際には声を掛け合っていることも、私が気に入っている理由です。(応募者：64歳／男性)



9. 久米田池遊歩道
(平成26年度指定)

散歩が好きな私は、色々なところへよく歩きに出かけます。写真の遊歩道は久米田寺へお参りした後、久米田池を一周するために歩いています。四季折々に花が咲きますので、楽しく散歩することが出来ます。皆様も歩きに行かれてはいかがでしょうか?(応募者：71歳／男性)



10. 久米田池遊歩道
(平成27年度指定)

◆朝、久米田池の方に行ったら、いい風景があるかなと思い出掛けました。昔に比べて久米田池もすごくきれいになったなあと思いました。前に池に浮かぶ建物を友達がムーミン塔といっていました。おもしろかったので写真に撮らせてもらいました。(応募者：41歳／男性)

◆久米田池の遊歩道の桜の花が咲いている時も、散り敷いている時も美しく花びらを踏むのはもったいないと思いながら朝の散歩や撮影を楽しんでいました。(応募者：73歳／女性)

◆府下最大級のため池である久米田池は四季折々の絶景を演出し、池を取り巻くこの道は春の桜、夏まつり、行基参りに続く紅葉、そして時折出会える冬の雪みちと見る人に楽しみを与えてくれます。また、普段からもここへくると野鳥、日の出や夕日が沈んでいく情景との出会いなどさまざまな味わいを与えてくれています。(応募者：75歳／男性)



11. 東ヶ丘町
グリーンベルト
花絨毯

◆「グリーンベルトロード」…わが町東ヶ丘。町の中央を横断するグリーンベルトと呼ぶ土手がある。土手には町開きの記念樹となる桜の木が植えられた。以来40数年、桜木は町が成熟し、次第に高齢化社会へと辿る姿を見つめて来た。桜木は衰えぬ己を誇示するかのように今、満開の花を咲かせている。町で生まれ育った三男も出ていき、夫婦二人の落ち着いた生活になると、年々グリーンベルトの桜花に逢える春が待ち遠しくなる。二人でグリーンベルトロードを行き来し、ほんわかとした気分になるのが春の恒例となっている。(応募者：76歳／男性)

こころに残るみち景観



11. 東ヶ丘町
グリーンベルトロード
花絨毯

◆200mにわたる斜面ベルト方式の緑地帯に、樹齢44年のソメイヨシノ桜183本が植樹され、春には2000人超町民へ春の華輝きと香りをおおいに楽しませくれますよ。また、雨降り、風吹きによる花吹雪と花絨毯はさらに町民の心と体に元気のいづどりを培わせてくれます。尚、道路の他に、桜樹林帯にも散歩専用の徒歩道もあり安全に桜見物が出来ます。是非、お家族でお花見散策にお越し下さいませ、東ヶ丘町へ(応募者：74歳/男性)



12. 流木墓園
桜並木みち

流木墓園の桜を見て主人と蕾が固いとか満開の時がいいとか話しながら歩きました。しかし今では思い出の道、今年も変わらず美しく咲いていると一人で花を見て通ります。花の時期はとても慰められる道です。(応募者：73歳/女性)



13. 阿間河滝町の
阿弥陀寺への参道

古い町並みの残る山手の街・阿間河滝地区。その町並みでも街道筋から阿弥陀寺へ抜ける参道は坂道と石垣、古い板壁の建物がコントラストを成して、このエリアを散策する時の1つのハイライトです。(応募者：52歳/男性)



14. 包近楠本神社
もも花参道

包近北の交差点、水道道、牛滝川の橋を渡り右へ入ると楠本神社の参道です。この道は桃畑の中をまっすぐ神社へ300m程度の桃花参道である。中ほどには素晴らしい桜の木が灯籠とともにそびえている。4月中旬から5月上旬にかけこの道は花に彩られるよ。又、桃畑はタンポポ、ツクシさんがさらに春を謳歌し、この道の楽しさ輝かしさを描いてくれます。小さな道ですが春をうっとりさせてくれますよ。さらに桃さんを食いたい気分が一段と増しますよ。(応募者：74歳/男性)



15. 楠田町の
まちなみ

短い街並み街道だが、私の心を揺さぶった古民家の街並みである。道の両側に建ち並ぶ町家は瓦葺の屋根で石垣造りの地盤に漆喰の塀壁、蔵造り、木製の引き戸壁、心地よい素朴なまち、城下町の田舎暮らしの良さが、心と目にしのんでくる、このまちの歴史・文化・くらしに触れてみたくなる轟川の宝町と感じられた。(応募者：75歳/男性)



◆岸和田に自然豊かで静かな場所があるとは知りませんでした。新しい岸和田のイメージができて、岸和田のことをもっと知りたいと思えた一枚です。(応募者：23歳/男性)



16. 牛滝街道(積川町)

◆日差しが強く厳しい暑さの日でしたが、水路と日影が続く気持ちの良い道でとても涼しく歩くことができました。趣のある建物と塀とが一層みちの雰囲気を作り出した良いものになっていると感じました。天気の良い日だったのもあり、どこを撮っても絵になるような道だと感じました。(応募者：21歳/女性)



17. バラの小道
(蜻蛉池公園)

蜻蛉池公園は岸和田市に38年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れていますが、やはりバラの咲く時期が最も華やかで印象的です。その内でもアーチをくぐって階段状に続く小道はいつ訪れても心に残ります。(応募者：71歳/男性)



18. メタセコイアの
小道
(蜻蛉池公園)

蜻蛉池公園は、岸和田市に38年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れています。やはりバラの咲くころは華やかですが、もうひとつ心に残るのはメタセコイアの巨木の小道です。冬に葉を落とした枝に春先の新芽が出るころの力強さ、真夏の暑さにも負けない濃い緑の堂々たる姿も大好きです。(応募者：71歳/男性)



19. 相川
ほたる遊歩道

6月のおわりごろには、蛍が飛び交う様子が楽しめます。向かいには棚田の風景が広がり、田植えの季節にはカエルの合唱が響き渡ります。昔の岸和田にタイムスリップしたような錯覚を覚えるのどかなみちです。(応募者：71歳/男性)



20. 牛滝いよかの郷
散策道

春は桜、夏は木陰の清涼、秋は紅葉そして冬の雪景色と牛滝の四季は我々に自然の美を満喫させてくれます。その美を手軽に楽しませてくれるいよかの郷の横を流れる牛滝川沿いの散策道があります。ここで四季の花、彩、そして香りに酔いしれて1日を過ごしたり、冬の雪景色を楽しんだ際は美人の湯とも言われるいよかの郷温泉でほっこりと温まることで豊かな心地にさせてくれます。(応募者：75歳/男性)



21. 和泉葛城山
登山道

和泉葛城山は高さ858m、塔原登山口から山頂までは徒歩2時間30分。頂上には八大竜王社、そして展望台がある。和歌山、大阪湾、関空など360度展望出来る。この山のすばらしさは、疲れを知らずに秋の紅葉、冬の雪景色、そして晩秋から初春まで、霧氷、樹氷が堪能できることでしょう。さらには、登山道の自然林「国の天然記念樹ブナ林」が、心うきうき、眼きらきら輝かさせてくれますよ。正月に帰省する、長女家族、長男夫婦と一緒にこの道を雪景色、霧氷、樹氷景色めざして登るのが我が家の楽しみで、孫たちのキャ、キャ声が登山道に鳴り響くのがこころに残る思い出です。(応募者：74歳/男性)

こころに残る水辺景観



1. はためく
岸和田漁港
大漁旗雄々しく

◆新年元旦、青空の岸和田漁港に港一杯に雄々しくたなびく漁船の大漁旗の姿は、この年の人生の励ましと喜び、心の幸福が湧き上がる。また水面の景観は、さらに心を躍らせる。岸和田の漁師の方々の航海安全と大漁の祈願に尊敬し、住民の心からの支援を新年の太陽神に大手を広げて願う。岸和田の漁師の安全活躍は、住民の幸福を培い、地域発展をもたらす。今年も新年から、漁港、漁船の大漁旗にこころウキウキ、人生の将来、未来への勇ましい希望が沸いてくる。(応募者：77歳／男性)

◆多くの漁船が整然と並んでいます。どの船にも様々な大漁旗がつけられ、その姿は勇壮であり、圧巻される景観です。(応募者：44歳／女性)



2. お堀と城下町

岸和田城のお堀はよく散歩にきて、心おちつく場所です。スイレンの花の咲く頃、水の色と空の色、むこうに見える城下町がとても好きです。(応募者：67歳／女性)



3. 岸和田城を彩る
夏の華

毎年楽しみにしている岸和田の花火大会を今年は岸和田城から見学しました。お堀に映る花火は美しく見る人を魅了してくれる景観です。(応募者：44歳／女性)



4. 岸和田城水辺

◆岸和田城の周りを仕事の日はいつも散歩してしており、ふと、水辺に映る岸和田城を見つけ携帯カメラで撮影しました。撮影した時は、特に珍しいものではないと思っていたのですが、この撮影以降、私自身一度もお目にかかれていないので、珍しくて歴史の風情あるものかと思い応募しました。(応募者：43歳／男性)

◆「水すめば月うつる」先哲の言葉。「岸和田城は、春には青空にそびえる天守と、苔むした石垣、桜の景観が美しい」と恩師は言う。この大好きな風景が、水辺にうつる。めぐりくるたび私は平和を祈り、感謝す！！(応募者：68歳／女性)



5. 久米田池の
幻想的な
ハーモニー

◆夏のはじめ頃に、朝早く久米田池に行って、朝日が出る頃に、久米田池がきれいな色に、そまってきたので撮影しました。普段の池と少しちがって幻想的に見えました。(応募者：42歳／男性)

◆久米田池といえば、広大な灌漑用地、鳥の国際空港といったイメージがありますが、寒ブリ漁の時期になると、ここは養魚地でもあるということを再認識します。この水辺での漁の日には、魚だけではなく、

く、網に掛かるザリガニ、カメなどの水生動物や水草、藻なども目にする事ができ、漁のおこぼれ目当て？にダイサギ、アオサギなどの水鳥も多く集まります。また、この日は、私にとっては久米田池を利用してきた人々の知恵と、多くの生き物を育むこの池の豊かさや恩恵を、いっそう強く感じさせられる日でもあります。(応募者：65歳／男性)

◆8月29日午前5時20分、散歩中東の空の朝ぼらけ。空と池の幻想的なハーモニー。(応募者：80歳／男性)



6. 水鳥と久米田池

◆アオサギが沢山いますが、この鳥さんは何を見ているのでしょうか？ このコは…水色の世界に溶け込んで幸せそうにみえました。きれいな池をいつまでも私たちが保持して、いつまでも鳥たちのお気に入りの場所であってもらえればいいなと思いました。(応募者：59歳／女性)

◆黒い顔に白いお化粧をしたオオバン。6個以上も一度に卵を産むんですね。みんな元気に孵ったらいいですね。鳥さんもお母さんはたくましいです。こんな環境をいつまでも大切にできるのは人間の力！岸和田の力！久米田池がいつまでもきれいなため池であるように！と、みんなの意識ができれば！と思います。(応募者：59歳／女性)

◆久米田池の夕方(4月後半)(応募者：55歳／男性)



7. 山直中町
錦秋のスリバチ池

秋晴れの朝日に輝くスリバチ池。色とりどりの紅葉と緑の木々が青い池に映り、一幅の絵画を見るようでした。しかしながら岸和田丘陵地再開発事業の工事が間際まで迫り、環境の変化による要因で、この光景が見られなくなるのではとの一抹の不安も覚えた。これからも残ってほしい景観である。(応募者：73歳／男性)



8. 田治米町
ボピー咲く
七ツ池

蜻蛉池公園に隣接する七ツ池。この池は蜻蛉池と共に田治米町の池である。春の新緑、秋の紅葉も美しいが、ゆったりとした池面に花が映えるこの季節も素晴らしい。(応募者：73歳／男性)



9. 蜻蛉池公園
大池の水鏡

◆とんぼ池公園のバラを撮影に、すこし時期が早いかなあと思いつつ出かけました。早朝からお天気もよく気持ちの良い朝で風もなく、大地に目がとまりました。さつきと新緑がきれいに写し出されてしばらくの間癒されていました。この水辺景観は誰にも観ていただきたい場所だと思います。(応募者：62歳／女性)

◆四季折々の自然を手軽に感じることができ、蜻蛉池公園ですが、お勧めは大池の東側池畔で、季節は晩冬です。初めてこ

こころに残る水辺景観

こを訪れた知人が、「トンボの生態が観察できるような、趣のある水辺が整備されているので『蜻蛉池公園』なのですね。」と勝手な解釈をしていましたが、池とはコンクリートと金網に囲われた所というイメージがあったからでしょうか。晩冬には、この時期ならではの美しい光、冬枯れした樹木などの佇まい、残り少なくなった冬を楽しんでいるような多くの水鳥たち…と興味が尽きません。(65歳男性)



10. 稚川町
水路のある古の
町並み

稲葉町交差点から蜻蛉池公園に曲がると牛滝川にかかる橋があります。その橋から牛滝川に沿って菅原神社のほうに曲がると山間の森閑とした雰囲気です。自転車で市街から牛滝山に上がるので自動車では通れない道を走ろうと思って牛滝川から住宅を抜けていく路地を走っていると、突然古い町並みが現れました。聞くところによると古から都に繋がる人が出たり、近年ではお酒の蔵元が酒蔵を構えたりといったところだとか。酒造りもできたところなのか、水路を流れる水が市街からさほど離れていないのに綺麗に澄んでいました。(応募者：53歳/男性)



11. 意賀美神社横
雨降りの滝

意賀美神社は大阪府自然環境保全地域に指定され、社叢は岸和田市の天然記念物に指定されています。常緑広葉樹林で林床植物が見られる典型的な暖地性照葉樹林の姿を残しています。ホルトノキやタイミンタチバナが植生しています。津田川には木々の間から雨降りの滝があります。この滝は濃い緑の中で大変神々しく見え、この地域の水に関する信仰と深い関係があることが想像できます。黒いハグロトンボがたくさん飛んでいました。(応募者：74歳/男性)



12. 内畑町
田んぼへの水引き
の始まり

きれいに維持管理された町中を流れる水路に澄み切った水が走り、もうすぐ田植えが始まるのかと感じさせてくれます。(48歳/男性)



13. 大沢町
サギも降り立つ
棚田

日本昔話に出てきそうな風景。棚田の水面が美しい。7月を過ぎれば、稲がぐんと伸び水面をあおあおと覆い、水辺が見えなくなるけれど。(応募者：53歳/男性)



14. 牛滝山大威徳寺
一の滝

◆私のこころに残る水辺景観として、牛滝山大威徳寺奥の一の滝から二の滝までよく吟行し、滝の春夏秋冬を撮影します。寺の境内に旧山滝村(現内畑町)が生んだ有名な俳人、鈴木大林男先生(故人)の句碑があります。「滝壺を 出でずに遊ぶ 水のあり 大林男(むりお)」牛滝川の源流に近い清流のこの滝は季節ごと水辺の景色をかえ、市を代表する水辺の景観として推薦します。「山門に 瀑音 微か 一の滝」俳号 赤心子(せきしんし)(応募者：71歳/男性)

◆この滝は家からも近くそれほど人も多くないのでよく夏に涼みに行きます。子供の頃はなんとも思っていまらなかったが大人になってからいくと、その心地よさに感動しました。(応募者：29歳/女性)

◆牛滝温泉から大威徳寺の境内を抜け、牛滝山に入るとバーベキューをする人たちの楽しげな声が遠くなり、だんだんと水の音が迫ってきて、滝が見えた。滝の前に立つと、あれだけ感じていた暑さが消え、自然の涼しさを感じる。滝の音に耳を澄ませ、澄んだ滝壺を見ると、時間を忘れる。せつかくの素晴らしい水辺なのに人があまりおらず、より多くの人に知って欲しいと思い応募しました。(応募者：16歳/男性)



15. 牛滝の谷に
そそぐ
錦流の滝

和泉葛城山から流れる小さな水の流れはいつしか錦となって滝になり牛滝へと流れ、人々の営みを支えてくれる。自然が多い岸和田らしい景観です。(応募者：48歳/男性)

こころに残るまち景観



1. 時を越えて
(春木中学校の
赤レンガ堀)

◆春木中学校に数百メートルに及ぶ赤レンガの堀があります。その昔、東洋のマンチェスターと言われた大阪の一大工業地帯の一角を担った岸和田の紡績工場跡の名残りが今も感じられます。百年を超える時の流れとともに通学する児童や地域の方々をこれからも見守り続けてくれることでしょう。(応募者：51歳/男性)



2. 春木西福寺

◆室町時代に創建されたと伝わる西福寺。紀州街道から石畳と松が佇む参道を進み山門を抜ければ大きな楠と本堂が目の前に現れ、たちまち本寺の歴史を感じる事ができる。春木地区のまち景観を象徴するものである。(応募者：48歳/男性)

こころに残るまち景観



3. 北町 寺町筋

◆岸和田駅から商店街を通過して脇道に入ると、由緒あるお寺が連なる寺町筋と言われるまちなみに出会いました。明智光秀の肖像画で有名な本徳寺など市街地とは思えない静寂と歴史を感じる佇まいが印象的な景観です。また、道路には隠し文字がありますので探して見て下さい。（応募者：45歳／女性）

◆台風一過の朝の様子。パンチのある寺町らしいスカイラインが好きです。未永く残してほしい、岸和田の名所です。（応募者：71歳／男性）



4. 中町
城跡の名残り

◆浜地区の中町に残る石垣。その昔ここから浜側は海岸線だったそうだ。今では家が立ち並び違和感さえ感じるが、当時の町並みを今に伝えるまち景観だと感じました。（応募者：48歳／男性）



5. 本町のまちなみ

◆歴史を感じる町家建築が建ち並ぶ本町の紀州街道は、岸和田らしさを印象づけるまち景観だと思います。岸和田祭礼のときも良いですが、日常の静寂な雰囲気があるところに残るお勧めの景観です。（応募者：51歳／男性）



6. 岸城町
マンサード長屋

◆100年近くたって改装もみられますが、当時の高級洋風長屋の様子がみられます。子供の頃中へ入れてもらうのが楽しみでした。施行者は岸和田高校旧校舎（RC）や十六軒長屋も請負った中筋組との事。（応募者：71歳／男性）



7. 宮本町
城見橋への道

◆城見橋を渡って岸和田駅へ向かうときは、必ずこの道を通ります。帰途もこの道です。岸和田に住む誇りを感じる道ともいえます。（応募者：71歳／男性）



8. 元旦の朝日に
映える岸和田城

◆平成31年1月1日。7時41分。朝日に照らされた岸和田城。20年間、（公財）大阪府国際交流財団のホームステイ担当として登録している。これまで多くの外国人の方が我が家に来た。必ず案内するのはここ「岸和田城」と「だんじり会館」。とてもよろこばれている（^^）岸城神社を出て左手に岸和田高校がある。その近くのお堀から撮影した。朝日に映えるお城はなかなか風情があり神々しく感じられ、思わずシャッターを切った。（応募者：56歳／女性）



9. 輝く岸和田城

◆2018.6.13 がんこで食事して出てくると岸和田城の空がきれいだった。午後8時ごろです。（応募者：77歳／男性）



10. 岸城町
十六軒長屋

◆蛸地藏商店街から一本入ったところに十六軒長屋が連なる町並みがあります。大正時代に建てられた長屋住宅は今も大切に使用されており、地域の歴史と趣きを感じるまち景観だと思います。（応募者：45歳／女性）

◆この長屋は大正時代からあり、今も現役でこの場所を見守り続けているそうです。ずっと岸和田市に住んでいましたが知りませんでした。市民より観光で岸和田市に来られる方のほうがよく知っているのではないのでしょうか。長屋がずらっと並ぶこの場所は実際見てみると圧巻です。（応募者：23歳／女性）

◆60年前城内小学校への通学路のひとつでした。同級生も何人か住んでいましたが皆どうしているのかな？全長120M、大正11年（1922）に建てられた質の高い和風長屋は城内に残る価値ある風景といえるでしょう。（応募者：71歳／男性）



11. 蛸地藏伝説を
伝えるレトロ建築
（南海蛸地藏駅）

◆蛸地藏伝説が描かれたステンドグラスが設置された駅舎は大正時代に建てられた貴重なレトロ建築であり、地域を象徴するまち景観だと感じました。（応募者：48歳／男性）



12. 久米田池の
夏祭り

◆久米田池の風物詩となっている夏祭り。多くの人々が楽しみにしている打ち上げ花火が祭のフィナーレ。夕暮れ時に湖面を見ながら遊歩道を散策するのもお勧めです。（応募者：48歳／男性）



13. 泉光寺と桜

◆岸和田藩主岡部氏の菩提寺として有名な泉光寺。歴代藩主の五輪塔や、門前を彩る桜が美しく咲き誇る印象深い場所です。（応募者：56歳／女性）



14. 日没前
（山直南校区）

◆田植えの頃お天気の良い日は最高のロケーションです。ずっとこの景観は失われずに続いてほしいと願っております。（応募者：64歳／女性）

ここに残るまち景観



15. 積川町
元本街道の
まちなみ

◆積川神社から少し海側に行き、細い路地を左に入ると元信貴本家酒造の工場と本宅があった通りになる。狭い道だが昔はここが本街道だったそうです。今にも杜氏さんたちの声が聞こえてきそうな佇まいです。ここで使われていた酒造の際に米を蒸した「甑釜（こしががま）」という大きな鉄の鍋が岸和田城の城門を入ってすぐのところに展示されています。当時のままの長く続く塀とともに、酒造りの盛んだったころがしのばれます。（応募者：63歳／女性）



16. 阿間河津町
長屋門坂

◆一見武家屋敷街のような長屋門の街並み。道路の舗装を工夫すれば時代劇のロケ地として売り出せそうですが、岸和田市には他にも積川旧牛滝道などロケ地になりそうな道が沢山ありますね。（応募者：71歳／男性）



17. 夕暮れの北阪

◆あまり知られていない神社だと思いますが、すごく景色がよく夜景も見ることができますので自分だけのお気に入りの場所です。また、どういう経緯でこの神社が建てられたのか知りたいです。そして近くには同じく景色のいい北阪町観光農場があり秋から冬にかけてみかん狩りを行うことができるので少しでもPRになれば嬉しいです。（応募者：21歳／男性）



18. 神於寺の参道

◆神於寺に至る参道は坂道となっているため歩くと息が切れる。しかし、桜が咲く頃はその参道を見事に彩り辛い参道も美しい景観となる。そして境内からの眺望は美しくまた来たいと思わせてくれる。（応募者：48歳／男性）



19. 白原峠の星祭り
(車窓にて)

◆毎年の星祭り（七夕）には、岸和田市上白原町の峠頂上付近にある個人宅の横にある広場に於いて、同町から通学する生徒並びに来賓として、岸和田警察署長、学校長、毎朝の指導にあたる駐在所員、学童の見守隊の人々を呼び、世界・日本・岸和田市のこどもたちの安全や安心・まちの人々の幸せを願いの糸に託し、星祭りを行います。筆者もそのひとりとして招待を受け参加します。ここに残る景観として是非推薦します。「学童の見守隊の息白し」「こどもらの安全いの星祭り」赤心子（応募者：78歳／男性）

ここに残るひとの営み景観



1. たくさん
釣りたい

◆この日は僕も釣りに来ていて、1匹も釣ることができなかったです。帰り際に撮りました。後ろの船にはたくさんの魚が乗っているんだろうなあと思いましたが、僕もたくさん釣りたいなあと思いました。そして、手前の釣り人たちにはたくさん魚が釣れるようにと心の中で願って帰りました。（15歳男性）



2. 春の訪れを告げる「いかなご」漁

◆2月末ごろから、大阪府鰯巾着網漁業協同組合がある地蔵浜で水揚げされる「いかなご」。早朝に出港した漁船が帰ってくると港は漁業関係者の活気で溢れます。いかなごを使った「くぎ煮」は、若い頃は食べようと思わなかったけど、年齢を重ねると、春の訪れを感じさせてくれると同時に、祖母や母親の手作りの思い出、漁師さんの仕事風景を蘇らせてくれる1品に変わりました。（45歳男性）



3. 農業まつり

◆毎年開催されていた農業まつり。農産物の販売やステージでの催しなどたくさんの人々が集まり、賑やかなひとの営みを感じられる景観です。今年は残念ながらコロナウイルスによる影響で中止となりましたが、またこのような紅葉の下、多くの人々が集まれる日々が早く戻って来ることを願っています。（32歳男性）



4. 岸和田観音
節分

◆いにしえから災害や疫病から身を守るために祈ってきた人々。お参りに来ているたくさんの人の姿に時代が変わっても人々の気持ちは大きく変わらないのだな、と気づかされる。古い時代にも、きっと同じような景色があったはずというノスタルジックな気分になれるひとこま。（44歳女性）



5. 頼もしい応援団
と歴史的なまちな
み（本町）

◆いつまでも見守り隊（タイ）！追っかけ隊（タイ）！娘と母のド根性風景（応募者：72歳／男性）



6. 岸和田城と
だんじり祭り

◆去年の岸和田だんじり祭りで岸和田城をバックにして撮りました。心に残る伝統はやっぱり岸和田だんじり祭りです。（31歳男性）



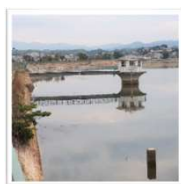
7. 古代の人々の営みを思い私たちは確かめる

◆2018年5月和歌山大学岸和田サテライトと岸和田市図書館との共同企画の「久米田を編集する」という地域の情報をオープンデータとして公開し、地域活性化につなげていくイベントが久米田寺付近で行われた。久米田寺付近は古代から人々の営みが行われ多数の古墳がある。久米田寺のすぐ隣の風吹山古墳の上から市内を見渡すと今の私たちの営みが広がっていた。人の営みをつないでいる景観を実感した瞬間だった。(76歳男性)



8. 久米田寺 千本搦き

◆新しい年の始まりの風物詩とも言える久米田寺の千本搦き。たくさんの細い杵でお餅を搗く様子は家庭とは違った趣きがあり、地域の人たちの中で受け継がれてきた営みとしてテーマにぴったりだと思いました。(44歳女性)



9. 田を潤す 久米田池

◆写真は、久米田池で、手前の「満水標」の頭が約50センチ見えています。これらの水が、久米田池下流に広がる田を潤し、米を育てた証です。(60歳男性)



10. 東葛城小学校・幼稚園(東葛ふれあいファーム)の田植え風景

◆東葛城小学校・幼稚園では、地域のJAさんと共同し、東葛ふれあいファームでの農業体験が行われている。東葛ふれあいファームでは稲や玉ねぎ、サツマイモなどの作物を育てている。子どもたちはふれあい委員さんやJAの職員の方から、植え付けや収穫について教えてもらったり、学校に関係のある施設にもっていったりし、活用されている。児童にとって農作業を体験することや食について考えることは、食育の一環となっている。東葛ふれあいファームは学校・園と地域をつなぐ場となっている。6月の田植え体験の様子である。現代の子どもにとって田んぼの中に入り、苗を植え付ける機会は多くない。子どもたちにとって、足から伝わる感触はとても新鮮な様子である。子どもたちの賑やかな声が地域にひろがる。学校と地域の結びつきを感じる風景である。(62歳男性)

場所は市ホームページから確認できます。

- ①市HPから「祭都Naviきしわだ」を選択
- ②「景観・公園情報マップ」を選択
- ③「景観マップ」を選択してご覧ください



岸和田市景観重要樹木とは、地域の良い景観を特徴づけ、市民に愛され、今後も保全が必要となるなどの要件を満たした樹木について景観法に基づき指定するものです。

01 奥家の棕 (阿間河滝町)



02 塔原町のサクラ (塔原町)



03 吉井町のエノキ (吉井町)



岸和田市景観重要樹木シンボルマーク



岸和田 景観MODE

未来につむぐ物語

「景観十年・風景百年・風土千年」と言われるように、私たちの日々の営みが、いつか時を経て、風土としてその土地に息づくことを想定しながら、「未来につなぐ」景観形成に取り組むことが重要だと考えられます。

これまで、優れた景観形成に寄与する地域の人々に大切に守られてきた「樹木」、社会の共有空間である「みち」、日々の営みの源である「水辺」について景観資源を発掘し、その情報を蓄積、共有に努めています。

《ここに残る景観資源発掘プロジェクト》

「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」の詳しい内容は岸和田市ホームページからご覧いただけます。

岸和田市ここに残る景観資源

検索



ここに残る景観資源発掘プロジェクトはこちら

問合せ先：岸和田市まちづくり推進部都市計画課 景観担当

〒596-8510 岸和田市岸城町7-1 ☎072-423-9538(直通)

※「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」のタイトル及びエピソードは応募原文のままとしています。